

1 調査目的

男女共同参画に関する市民の意識や生活実態、要望等を把握し、令和3年度に改定する「男女共同参画推進計画」の基礎資料とすることを目的に行う。

2 実施主体

浜田市

3 調査方法と実施期間

- (1) 調査対象：浜田市に住民登録をしている18歳以上の市民
- (2) 標本数：1,500人（男女各750人）
- (3) 標本抽出法：住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送方式
- (5) 調査期間：令和2年（2020年）12月11日～12月25日
- (6) 最終回答票到着：令和3年1月18日

4 回収結果

- (1) 回収状況：抽出標本数 1,500（直前住民票異動者数 1）
実質調査対象数 1,499
回収数(回収率) 596（39.73%）

5 調査結果の見方

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数に対する百分比（%）を表している。
- (2) 1人の対象に複数の回答の設問では、百分比（%）の合計は100%を超える。
- (3) 百分比（%）の表示は、少数点第2位以下を単純四捨五入としているため、必ずしも合計が100とならない場合がある。
- (4) 経年比較・島根県調査との比較は、比較する設問、選択肢及び選択条件などが一致していないものもある。
- (5) 自由記述は、個人が特定されるような表現等を除き、可能な限り原文のまま掲載している。

6 比較に用いた過去調査・他調査

- (1) 平成26年調査（浜田市）
 - ・調査名：男女共同参画に関する市民の意識・実態調査
 - ・調査時期：平成26年（2014年）12月1日～12月19日
 - ・調査対象：浜田市に住民登録をしている18歳以上の市民 1,500人
 - ・対象抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出
 - ・調査方法：郵送法
 - ・回収状況：有効回収数 620人（41.5%）
- (2) 令和元年度調査（島根県）
 - ・調査名：令和元年度 島根県男女共同参画に関する県民の意識・実態調査
 - ・調査時期：令和元年（2019年）7月23日～9月30日

- ・調査対象：満 18 歳以上の県内居住者 2,000 人
- ・対象抽出方法：層化無作為抽出法
- ・調査方法：郵送法
- ・回収状況：有効回収数 896 人（44.8%）

1 自身や家族の状況について

問1 はじめに、ご自身やご家族の状況についてお伺いします。
(該当に○をつけてください。)

回答者の構成

(1) 性別構成 (あなたの性別を教えてください。)

	人数 (人)	割合 (%)
男 性	283	47.5
女 性	311	52.2
その他	1	0.2
無回答	1	0.2
合 計	596	100

(2) 年代構成 (あなたの年代を教えてください。)

	人数 (人)	割合 (%)
18～20 歳代	29	4.9
30 歳代	54	9.1
40 歳代	57	9.6
50 歳代	78	13.1
60 歳代	138	23.2
70 歳代	153	25.7
80 歳代以上	85	14.3
無回答	2	0.3
合 計	596	100

(3) 職業 (あなたの現在のお仕事は、どれにあたりますか。)

	実数	構成比 (%)
自営業 (農林漁業・家族従事者含む)	56	9.4
勤務者 (パート・アルバイト等含む)	272	45.6
学生	16	2.7
無職・休職中 (主婦・主夫を含む)	235	39.4
その他	14	2.3
無回答	3	0.5
合 計	596	100

(4) 配偶者・パートナーの有無 (配偶者・パートナーがいますか。)

	実数(人)	割合 (%)
あり	430	72.1
なし	163	27.3
無回答	3	0.5
合 計	596	100

(5) 配偶者・パートナーの就業状況 (配偶者・パートナーありと回答した方のみ)
(配偶者やパートナーの現在のお仕事は、どれにあたりますか。)

	実数	構成比(%)
自営業 (農林漁業・家族従事者含む)	41	9.5
勤務者 (パート・アルバイト等含む)	207	48.1
学生	1	0.2
無職・休職中 (主婦・主夫を含む)	172	40.0
その他	9	2.1
無回答	0	0.0
合 計	430	100

(6) 世帯の状況 (あなたの現在の世帯は、どれにあたりますか。)

	実数	構成比(%)
単身世帯	90	15.1
夫婦のみの世帯	211	35.4
夫婦と子どもによる世帯	150	25.2
三世代 (親と子と孫) 以上の世帯	52	8.7
夫婦と親による世帯	27	4.5
その他	49	8.2
無回答	17	2.9
合 計	596	100

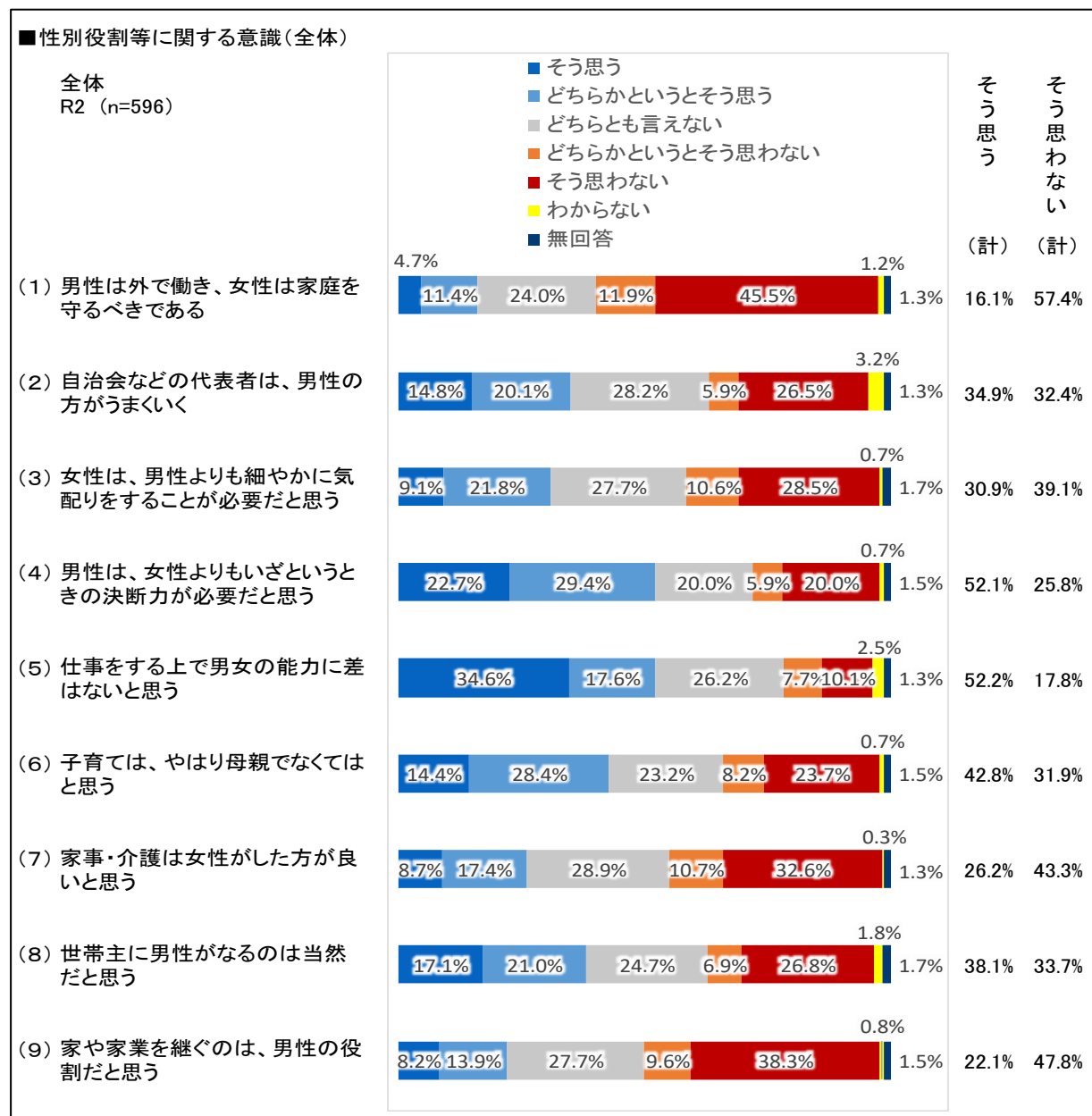
2 男女の性別役割などについて

問2 次にあげることがらについて、あなたはどのように思いますか。
(○は、それぞれの質問ごとに一つ)

※ 今回の調査から選択肢に「どちらとも言えない」「わからない」を追加した設問である。

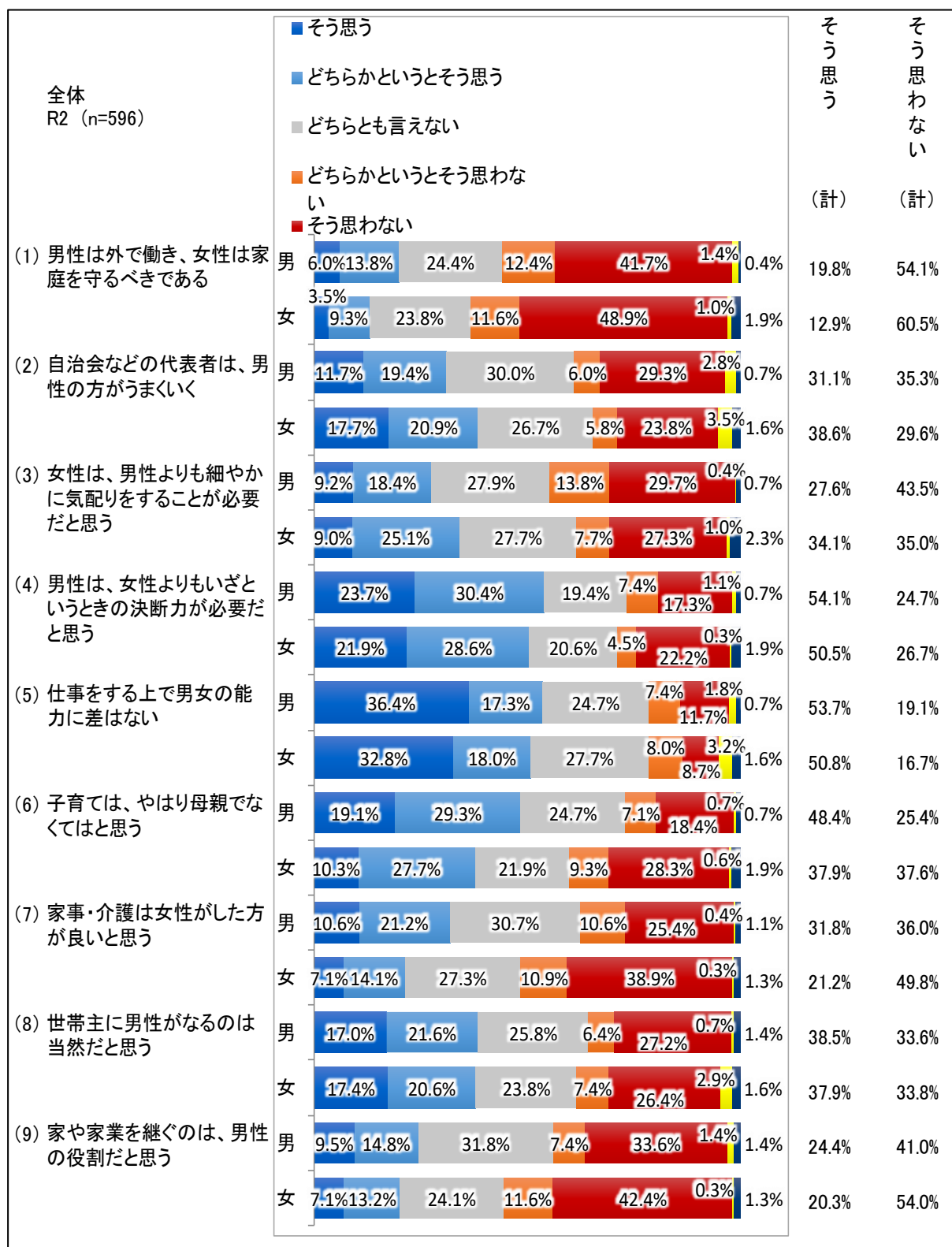
※ 今回からの調査の項目に、(9)を追加した設問である。

■性別役割等に関する意識(全体)



典型的な性別役割分担を示す「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」については、否定的な回答が 57.4%と半数を超えている。また、今回新たな質問の「家や家業を継ぐのは、男性の役割だと思う」については、「そう思わない」が 47.8%と半数近い回答である。「女性は気配り」への肯定的な回答が 30.9%に対し、「男性は決断力」への肯定的な回答が 52.1%と半数を超えており、性別による固定観念が残っていることが伺える。

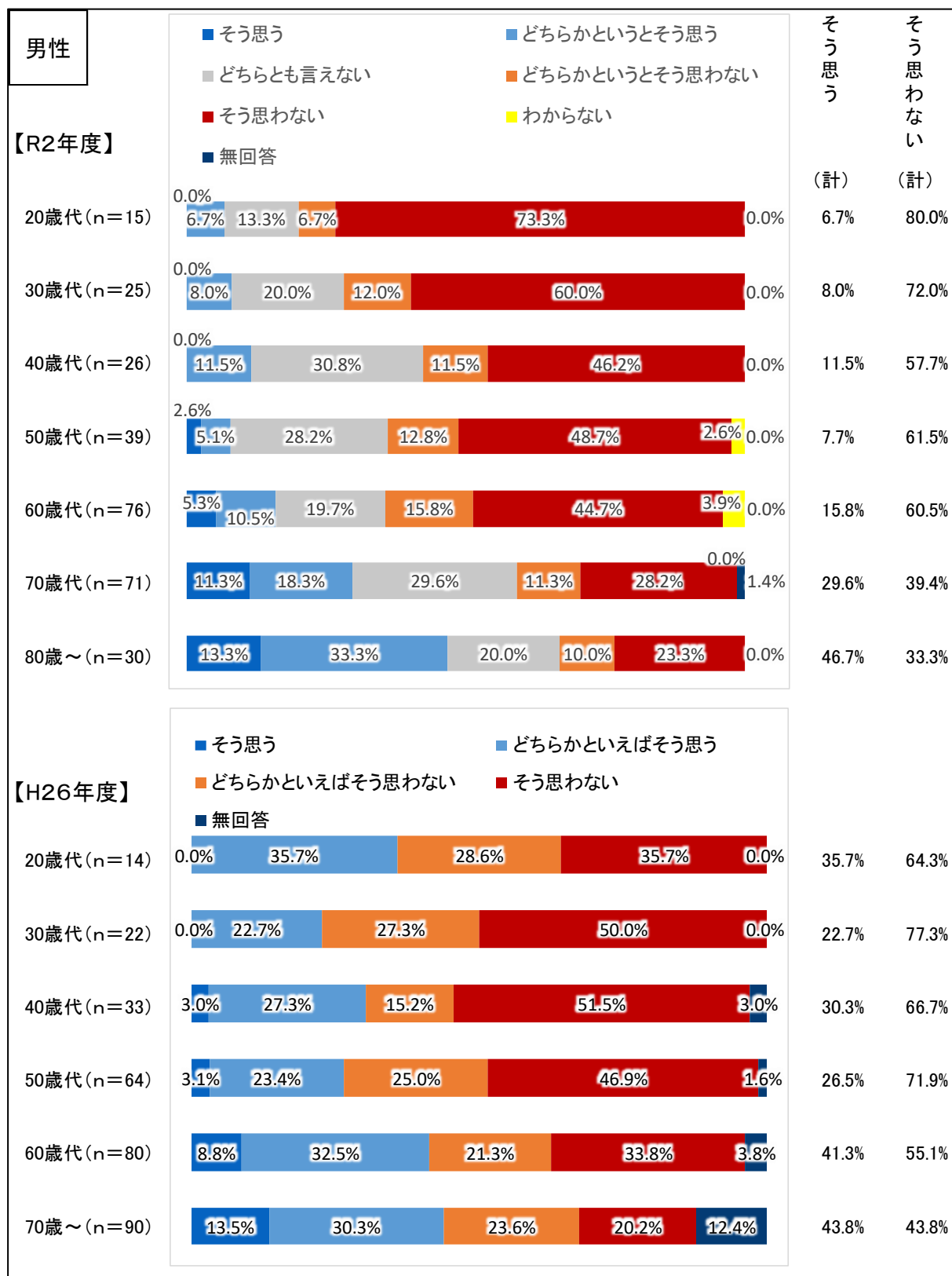
■性別役割等に関する意識(性別)



男女の回答を比較すると、肯定的な回答では、「男性は決断力が必要」と「仕事をするうえでの男女差はない」が、男女共に半数を超えた。また、否定的な回答のうち、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」が男女共に半数を超えた。同じく否定的な回答のうち、「家事・介護は女性がした方が良いと思う」では、男性は 36.0% に対し女性は 49.8% で半数近く、今回新たに項目に入れた「家や家業を継ぐのは、男性の役割だと思う」については、男性 41.0%、女性 54.0% で女性の回答が半数を超えた。

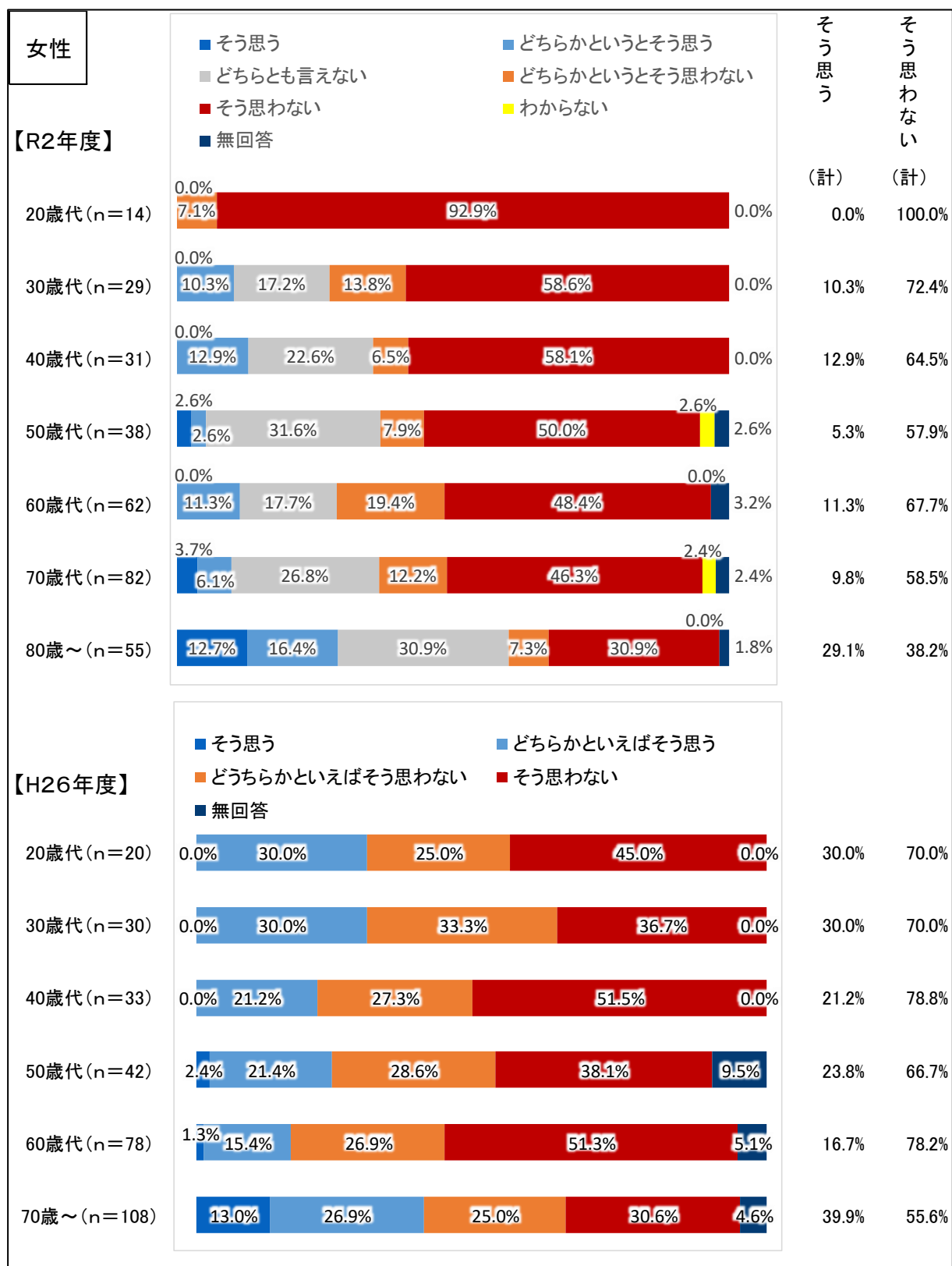
問 2 (1) 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」 (性・年齢別)

■男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである(男性・年齢別)



※年齢枠は、前回の 70 歳以上から、70 歳代、80 歳以上とした。

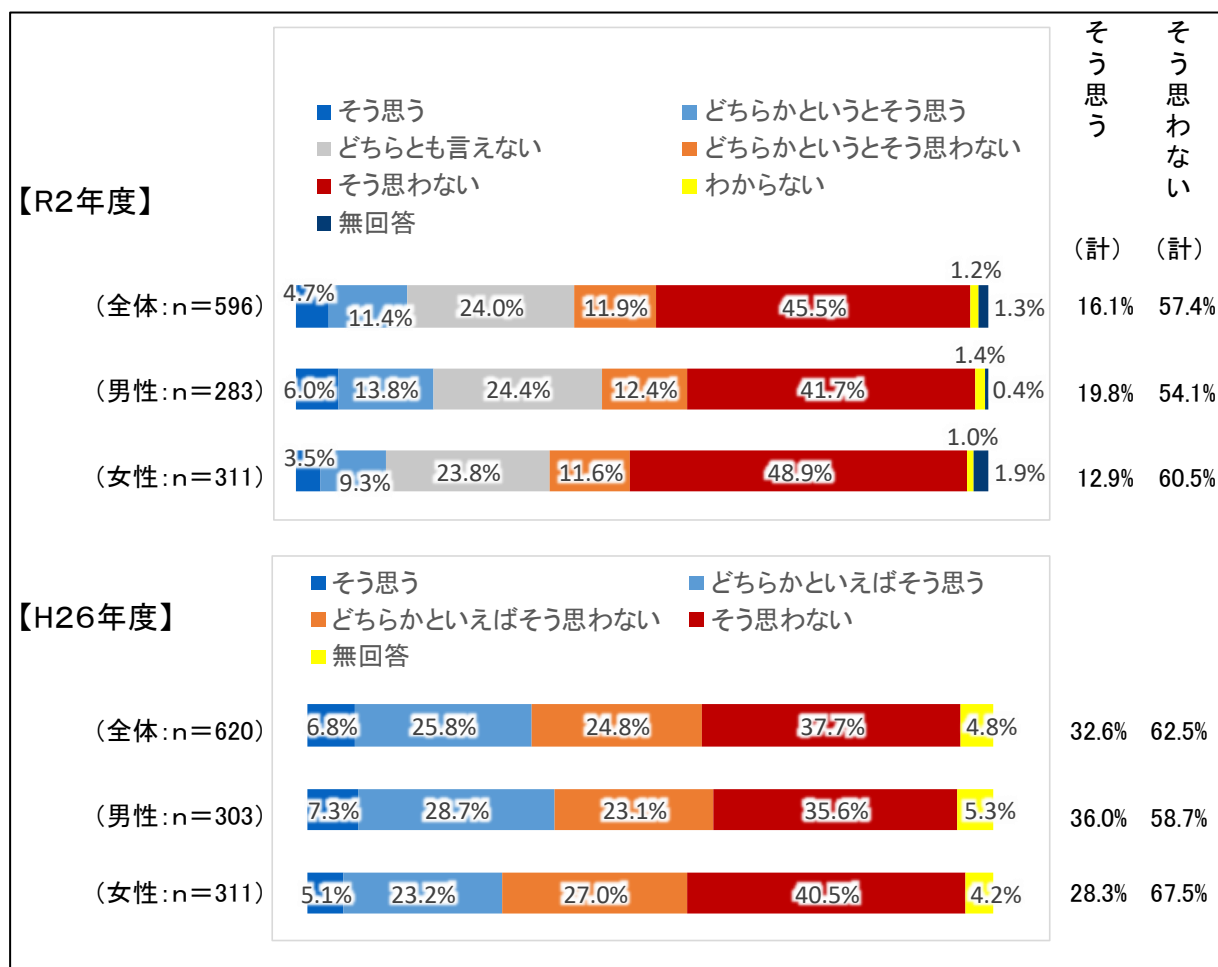
■男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである(女性・年齢別)



男性は60歳代以下が否定的な回答が半数を超え、女性は、70歳代以下が半数を超えている。特に20歳代では男性80%、女性に関しては、100%と高い割合である。

今回から年齢区分に加えた80歳以上の男性に関しては、肯定的な回答が多いがその割合は半数以下である。女性に関しては、肯定的な回答はおおむね1割程度で、性別役割意識が減少している傾向が表れている。

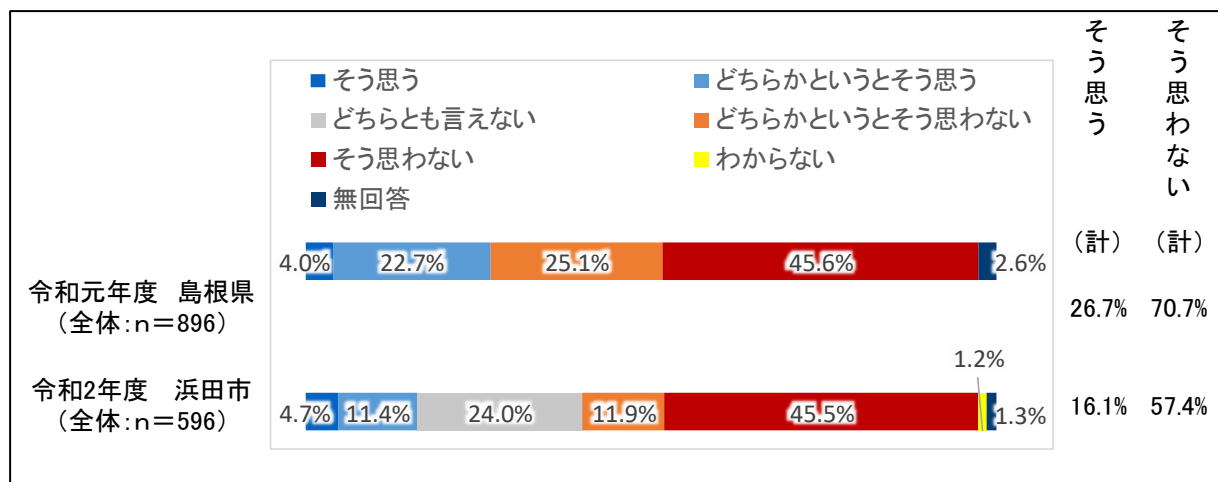
■男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである(令和2年度・平成26年度(全体・性別))



今回の調査では、回答の選択肢に「どちらとも言えない」「わからない」を設定しているため、単純な比較はできないが、肯定意識(そう思う・どちらかというと思う)は全体で16.1%、否定意識(そう思わない・どちらかというと思わない)は57.4%となっており、前回と比べ、肯定意識は16.5ポイント減っている。

「そう思わない」という回答が前回では全体で37.7%、今回は選択肢が増えたにもかかわらず、45.5%と7.8ポイント増えている。今回からの選択肢「どちらとも言えない」は、男性・女性とも約24%の人が回答している。

■島根県との比較 島根県・浜田市(全体)

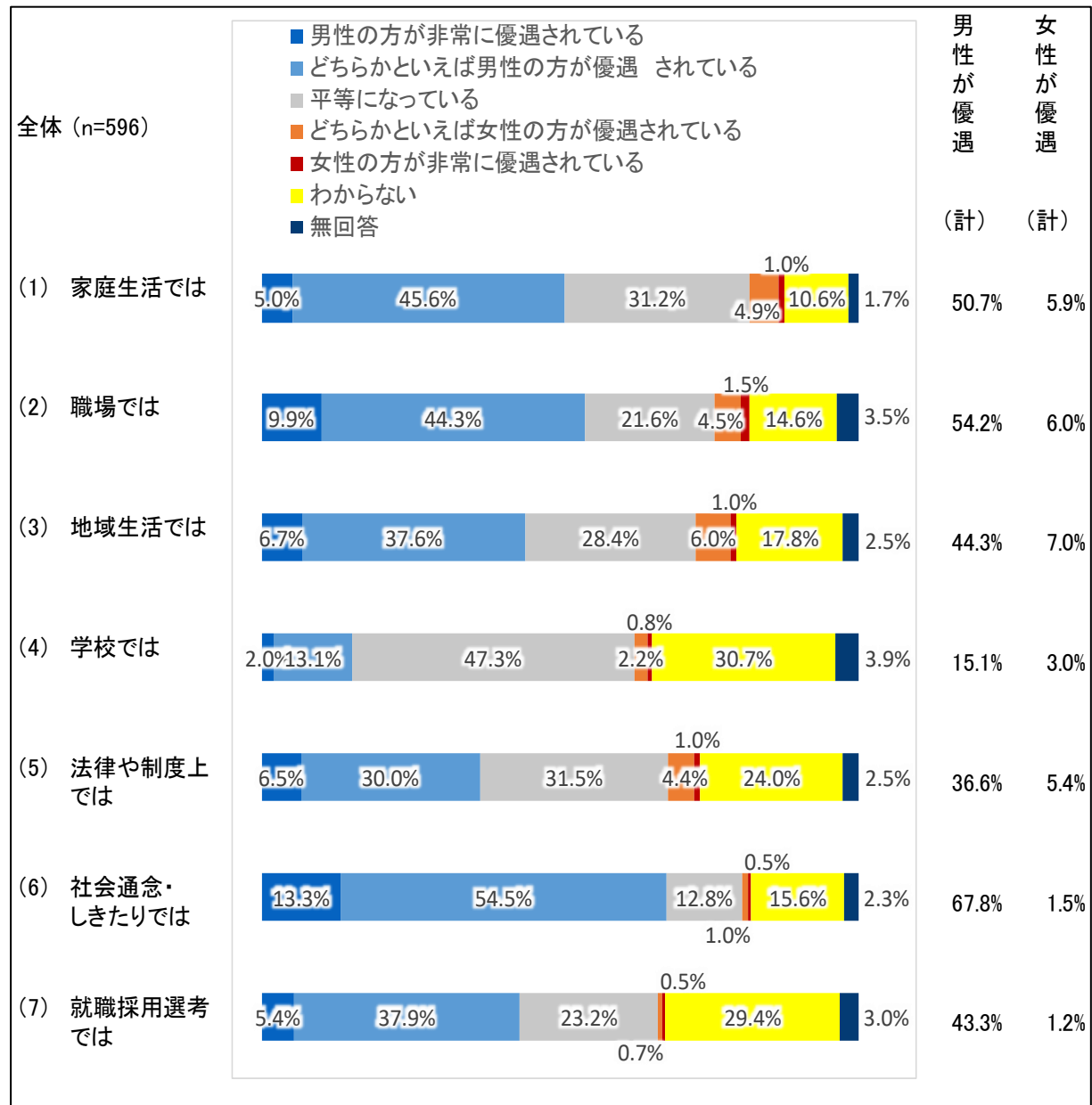


3 各分野における男女の地位の平等感について

問3 次にあげる分野で、男女の地位は現在平等になっていると思いますか。
(○は質問ごとに一つずつ)

※ 今回の調査から選択肢に「わからない」を追加した設問である。

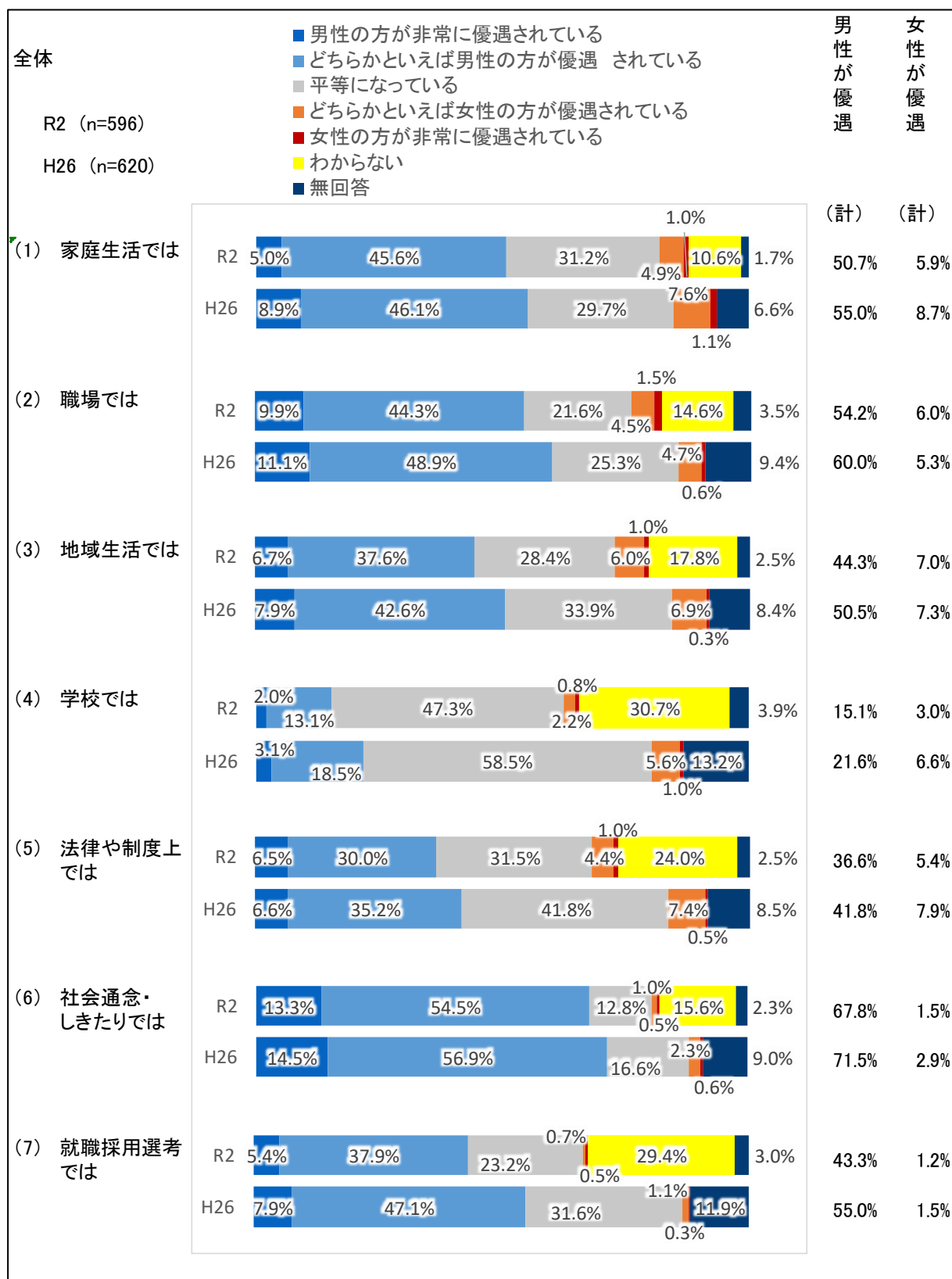
■各分野における男女の地位の平等感(全体)



男女平等感について、「平等」とする回答が多いものは、「学校教育の場」で47.3%であり、次いで高いものは、「法律や制度上」で31.5%である。

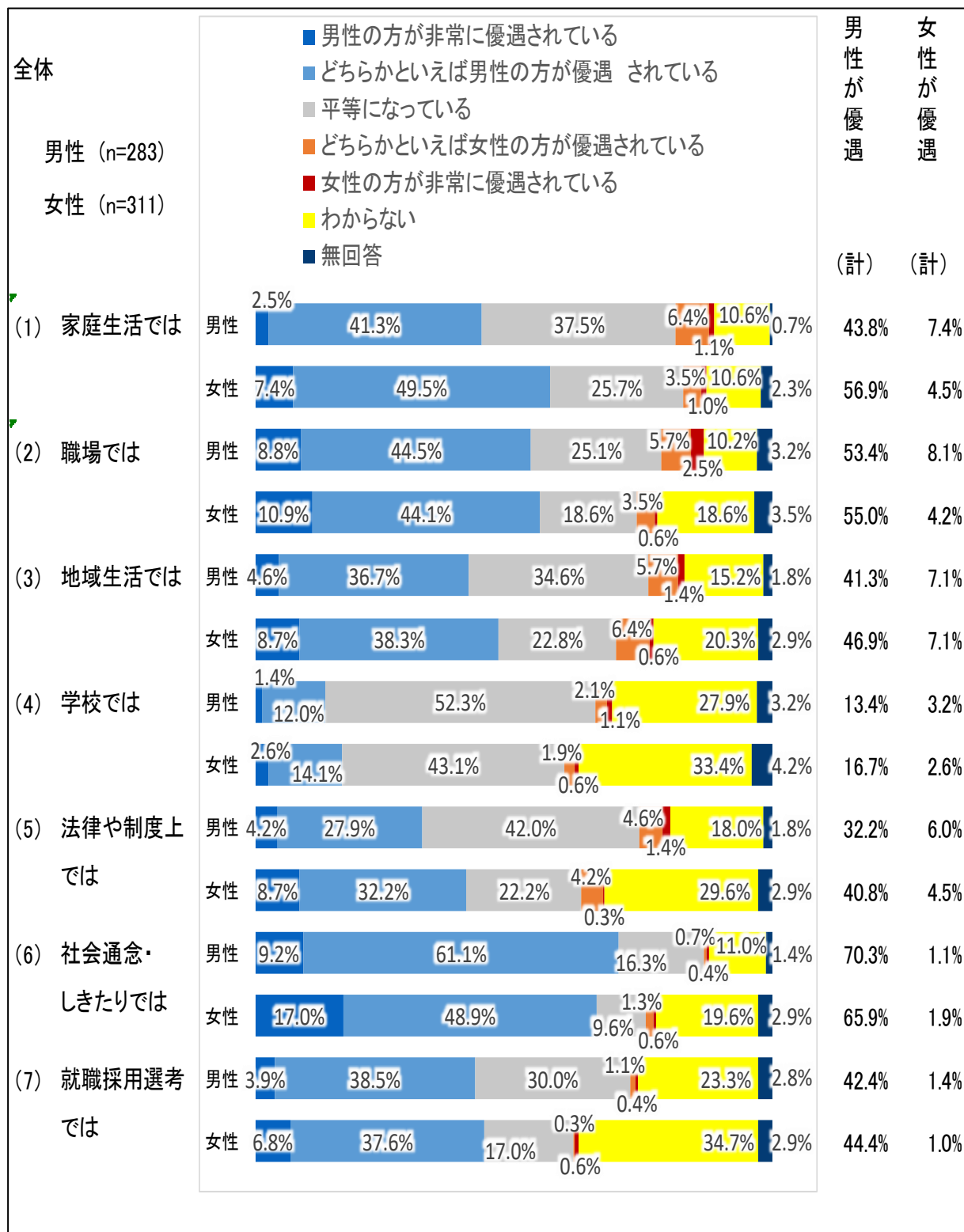
「男性の方が優遇」「女性の方が優遇」でみると、全ての分野で「男性の方が優遇」されているとなっており、「女性の方が優遇」の割合は、10%に満たない結果となった。

■各分野における男女の地位の平等感(全体・前回比較)



今回の調査から回答に「わからない」を設定したので単純な比較はできないが、前回と比べパーセンテージは減少しているものの、今回もどの項目も男性が優遇されているとする割合が多い。一方で、「わからない」の回答割合も 10.6%～30.7%で、平均して 2 割程度となっている。

■各分野における男女の地位の平等感(性別)



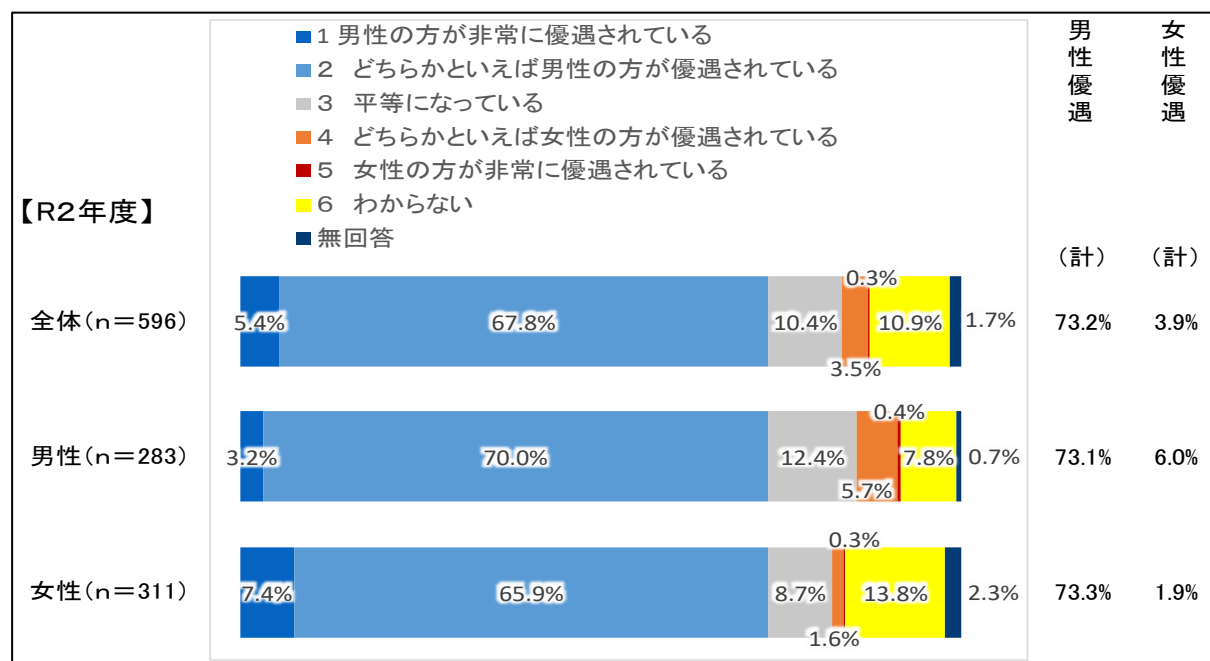
すべての分野で「平等」と回答した割合は男性が上回っており、特に男女差の大きい分野は、「法律や制度上」で19.8ポイントの差になっている。(男性42.0%、女性22.2%)

「男性が優遇されている」と感じる分野で最も高い回答率は、男女ともに「社会通念・しきたり」である。(男性70.3%、女性65.9%)

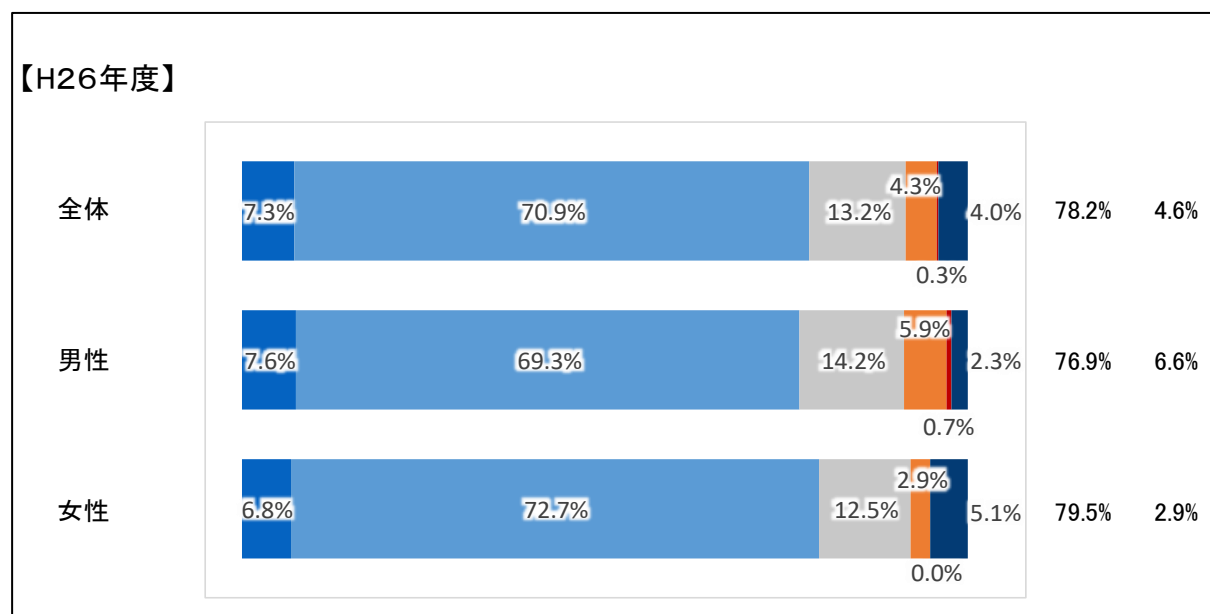
4 社会全体における男女の地位の平等感について

問4 社会全体で見た場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(○は一つ)

■社会全体における男女の地位の平等感(全体・性別)



■社会全体における男女の地位の平等感(平成 26 年度 全体・性別)



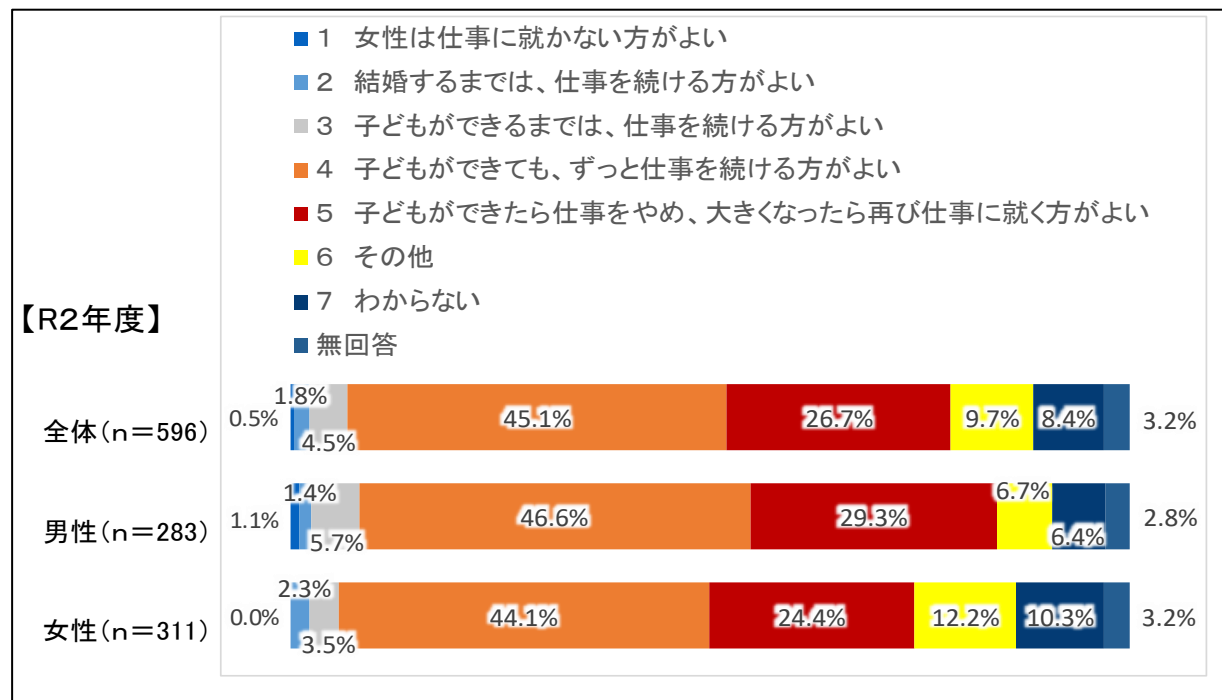
「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」を合算した「男性の優遇」を感じる割合は、前回と同じく全体・性別ともに70%を超えている。「女性の優遇」を感じる割合は、今回は全体・性別ともに6%以下で、前回同様1割以下である。特に、女性自身が「女性が優遇されている」と感じる割合は、1.9%であり、前回の2.9%を1ポイント下回っている。

5 女性と仕事について

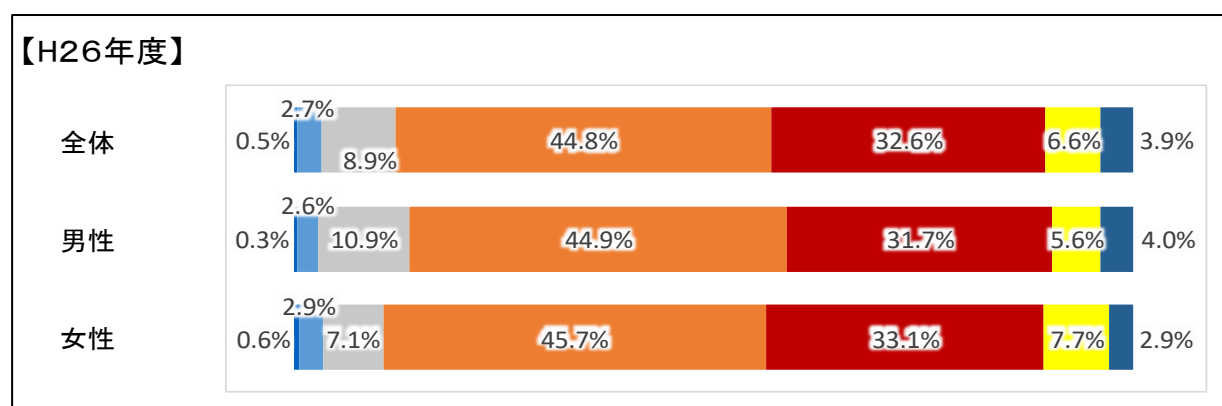
問5 一般的に女性と仕事について、あなたはどのようにお考えですか。
(○は一つ)

※ 今回の調査から選択肢に「わからない」を追加した設問である。

■女性と仕事について(全体・性別)



■女性と仕事について(平成26年度 全体・性別)



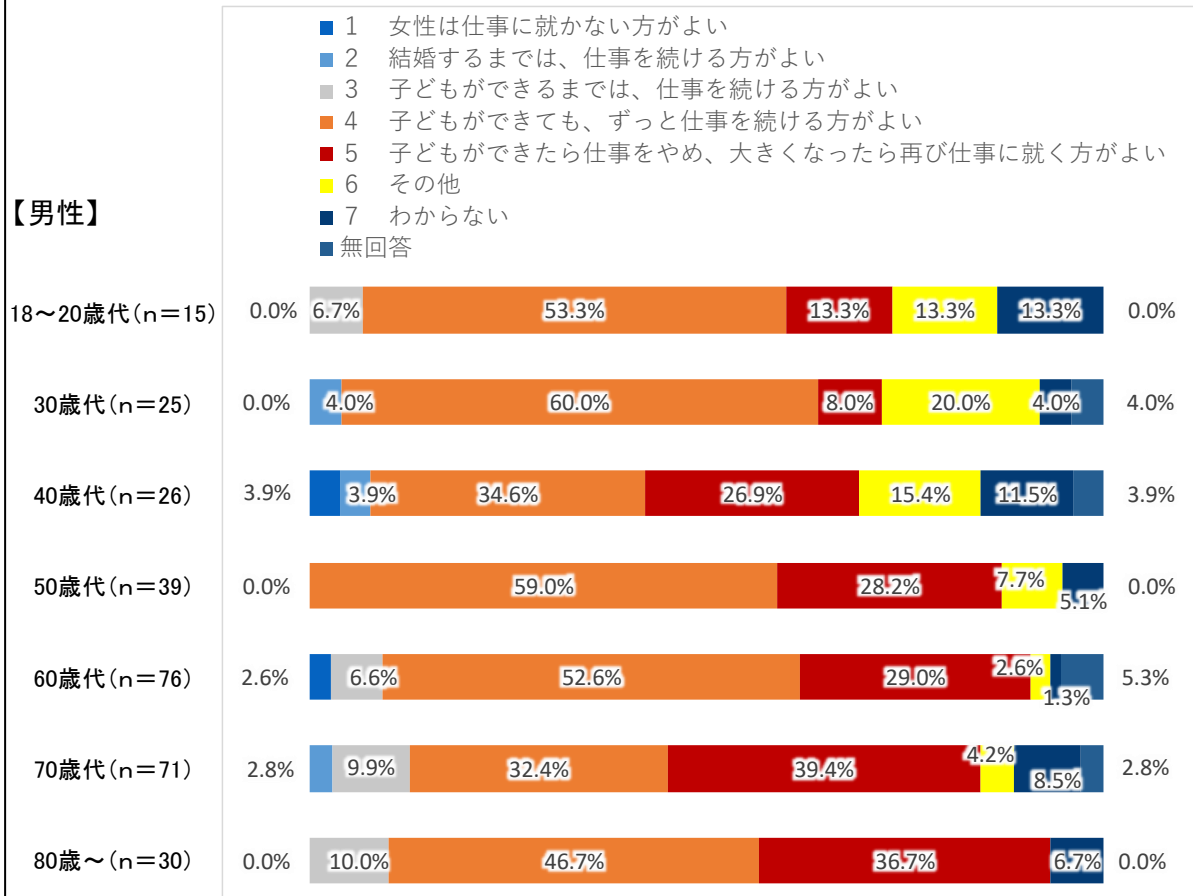
女性の就労については、「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」の「就労継続型」が45.1%で最も多く、次に「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい」という「中断・再就労型」が26.7%となった。

また、女性は仕事に就かない方がよいという回答では、女性の回答は0%だった。

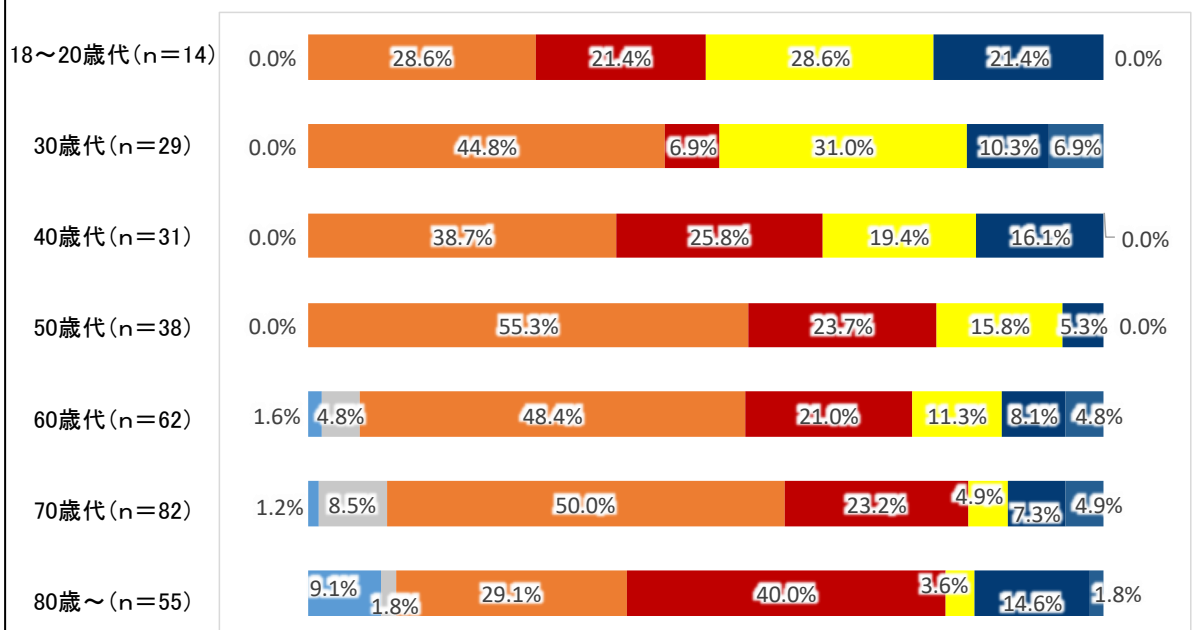
「中断・再就労型」については、選択肢が増えたため単純な比較はできないが、前回に比べ、全体・性別ともに減少している。

■女性と仕事について(性・年齢別)

【男性】



【女性】



性別・年代別にみて、どの年代も比較的割合が高い「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」については、男性の回答では20歳代以下、30歳代、50歳代、60歳代が半数以上の割合に対し、女性の回答で半数以上の割合は50歳代、70歳代で、男性に比べ若年層の割合が低い。

【選択肢「その他」の意見】

- ・ 本人が働きたいなら働けば良いと思う。
- ・ 5(子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい)がベストだが、その家族の経済等によってそれぞれきめればよい。女性が子供を安心して産んで職場に復帰する社会のしくみが整っていないのが現状。
- ・ 家庭ごとの状況によって決めればよい。
- ・ 環境によって子供に負担が少ないなら仕事を続けた方が良いと思う。
- ・ 妊娠中は仕事が難しい場合があるので、継続性のある仕事は難しい点がある。
- ・ 自分がしたいようにすれば良いと思う。
- ・ 本人の状況によって好きにすればよい。
- ・ 好きにしたらよい。
- ・ 働ける状況にあれば仕事に従事する方が良いと思う。年金受給に際し厚生年金の適用が受けられる状況が良い。
- ・ 個人の自由。
- ・ 収入による。
- ・ 個人の自由。 男女関係ない。
- ・ 個人の家庭環境等に左右される事だから、①～⑤の例題は愚問では？
- ・ 各家庭によって状況が異なるので何ともいえない。
- ・ 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再びが理想であるが、夫の収入だけでは無理。
- ・ 転勤族の有資格者だが、長期間働けない申し訳なさで一步が踏み出せないのと、子供が不登校になったりと結局女性側が犠牲になる。
- ・ 人それぞれ家庭の事情があり、家に居たいと思っても、経済的に仕事をしなくては行けないとか、仕事をする事が好きな人もいて、家庭環境によって違うと思います。
- ・ 各家庭で話し合って決めればよい。
- ・ 職業によって全く違ってくる。
- ・ 家庭の状況により判断。
- ・ 子供の状況、保育園の状況によって臨機応変に対応できるよう(状況が改善されれば元の職場に復帰できる)望みます。
- ・ 子育てに専念したい、仕事をしたい等は人によって違うので、個人の意思を尊重すべき。
- ・ 本人の自由だと思う。
- ・ 女性によって考え方が違うので、個人の意見を尊重すべきだと思う。
- ・ 人それぞれの考えがあると思う。続ける方が良いと決めつけるのはできません。
- ・ 本人の意思なので、自分が意見することではないと思う。
- ・ 金銭的な状況を見て、働きたければ働けばいいと思う。あとは仕事の内容による。
- ・ 仕事、子育て、介護等 両方できるような社会になってほしい。
- ・ 本人の自由。干渉は必要なし。
- ・ お互いが助け合い、周りに助けてもらえる人が居るなら、個々仕事をしたければすれば良いと思います。
- ・ その人、その家庭のやり方で良いと思う。
- ・ 仕事をしたいならすればよい。子育てや家事をしたいならすればよい。
- ・ 子どもができて、状況に応じて働けたら良い。

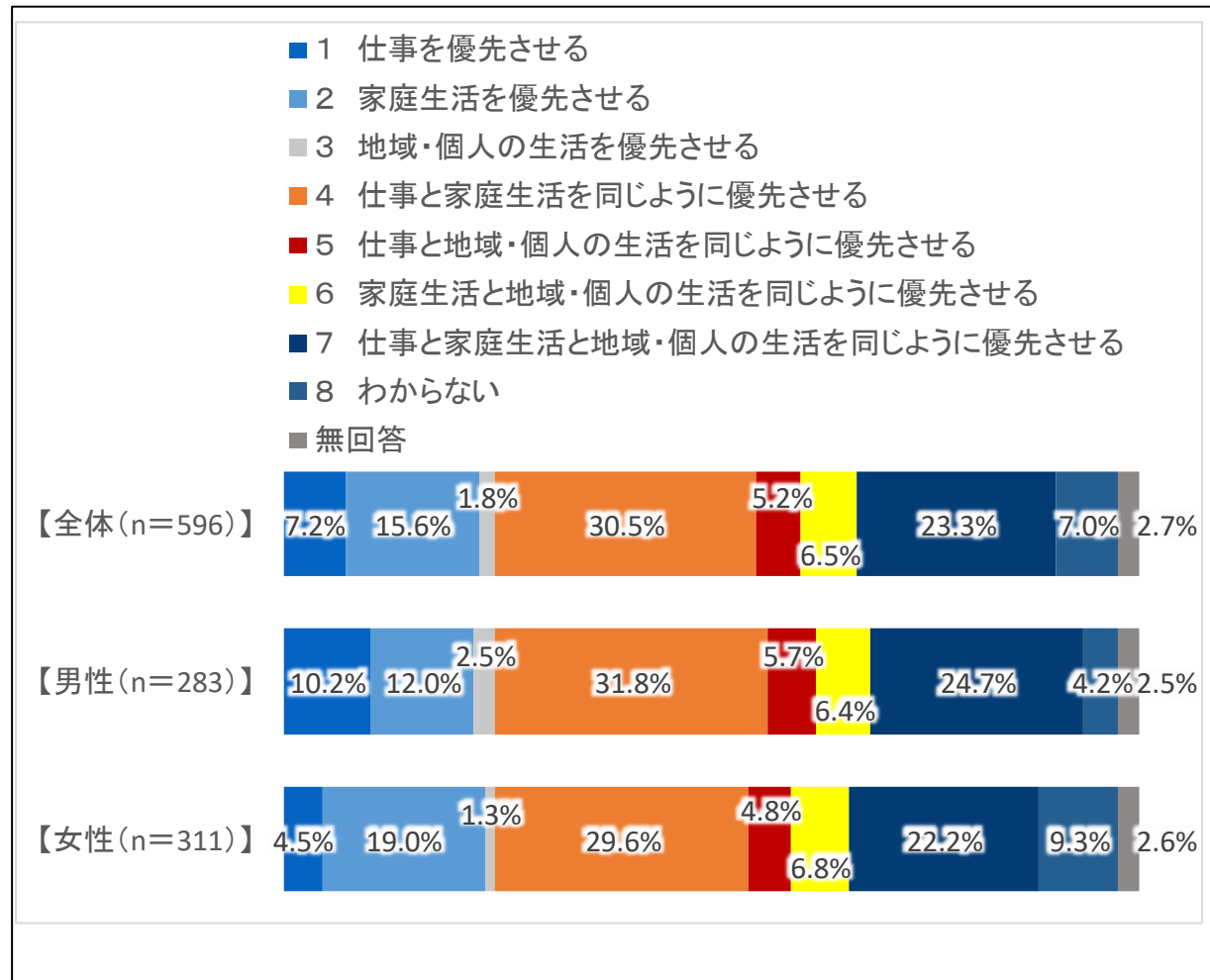
- ・ 一人一人の都合、考えで、いろんな仕事のやり方で良い。
- ・ 「子供」というブランドを仕事に持ち込む人が増えてきている気がする。公務員などは特に偉ぶる人が多い。全てを手に入れたような顔をしている。
- ・ パートナーと話を重ねて、家庭に合った形を取れば良いと思う。そこに性別は関係ないと思う。
- ・ 家族の協力があればずっと仕事(本人が望んでいれば)を続ける方がよい。無理な場合は、(選択肢)5(子どもが出来たら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事に就く方がよい)のようになるのでは。
- ・ 性別にかかわらず、個人の事情に合わせて仕事とプライベートのバランスを取るのが良い。「女性の働き方がこうあるべき」などときめつけるべきではない。
- ・ 家庭の都合による。
- ・ 夫婦で話し合って決めればよい。
- ・ ケースバイケース。家庭の事情。
- ・ 家庭の事情其々と思う。
- ・ 考え方は多様であって良いと思う。私の考えは、男性と女性(母親と父親)は、生来の役割が異なるので、父親は子育てに協力すると言っても母親と同じようにはできない。子供の健全な発育のために女性は子供がある程度成長するまでは仕事より子育てを優先すべき(完全にやめるかどうかは人それぞれ)で、大きくなったら仕事を増やすと良いと思う。
- ・ 本人が好きにしたらよい。
- ・ 子どもを育てながら希望する仕事を続けられるような周囲の環境が必要。
- ・ 本人次第だと思う。
- ・ 家庭内で相談して柔軟に考えた方が良い。
- ・ 人それぞれ仕事をしたい人が続ければ良いと思う。
- ・ 授乳等女性(母親・母乳等)でなければなしえないこともある。人工乳であっても、同様である。離乳食が完成し、断乳した頃社会復帰できる方がよい。
- ・ 人それぞれなので、決まりはない。
- ・ 夫の収入で妻と子のやりくりができれば良いが、生活が成り立たない場合、妻も働かなければならないし、子供が小さい時は仕事をやすまなければいけない。
- ・ 夫婦共に働かなければ生計を維持できなかったため、仕事を続けただけの事。本人の意思・環境による。配偶者の理解、協力。
- ・ 本人が望む通りにできれば良い。
- ・ その方々の力に合わせて考えたら良いと思う。平等にとはいえど、女性が、又は男性が活躍できる場が仕事柄あると思うため。
- ・ 自分のやり方に合ったスタイルをすれば良いと思う。(働きたかったら続ける。やめたくなったらやめる。)
- ・ 1人1人の家庭や仕事の環境に合わせて柔軟な選択ができるとよい。
- ・ 本人が子育てしたければすればいいし、仕事したければすればいい。経済的な問題もあるので、何とも言えない。
- ・ 個々によって家庭環境が様々なので、家庭で話合って決めたり、自分の体調に合わせて決めていけばいいと思う。
- ・ やりたい仕事を経済的に必要ならばやればよいし、子育てがしたければ女性でも男性でも話し合ってやっていけばよい。

6 仕事、家庭生活、地域、個人の生活について

問6 あなたは、仕事、家庭生活、地域・個人の生活の、どれを優先させる方が望ましいと思いますか。
(○は一つ)

※ 今回の調査から選択肢に「わからない」を追加した設問である。

■ 仕事、家庭生活、地域、個人の生活の優先について（希望）



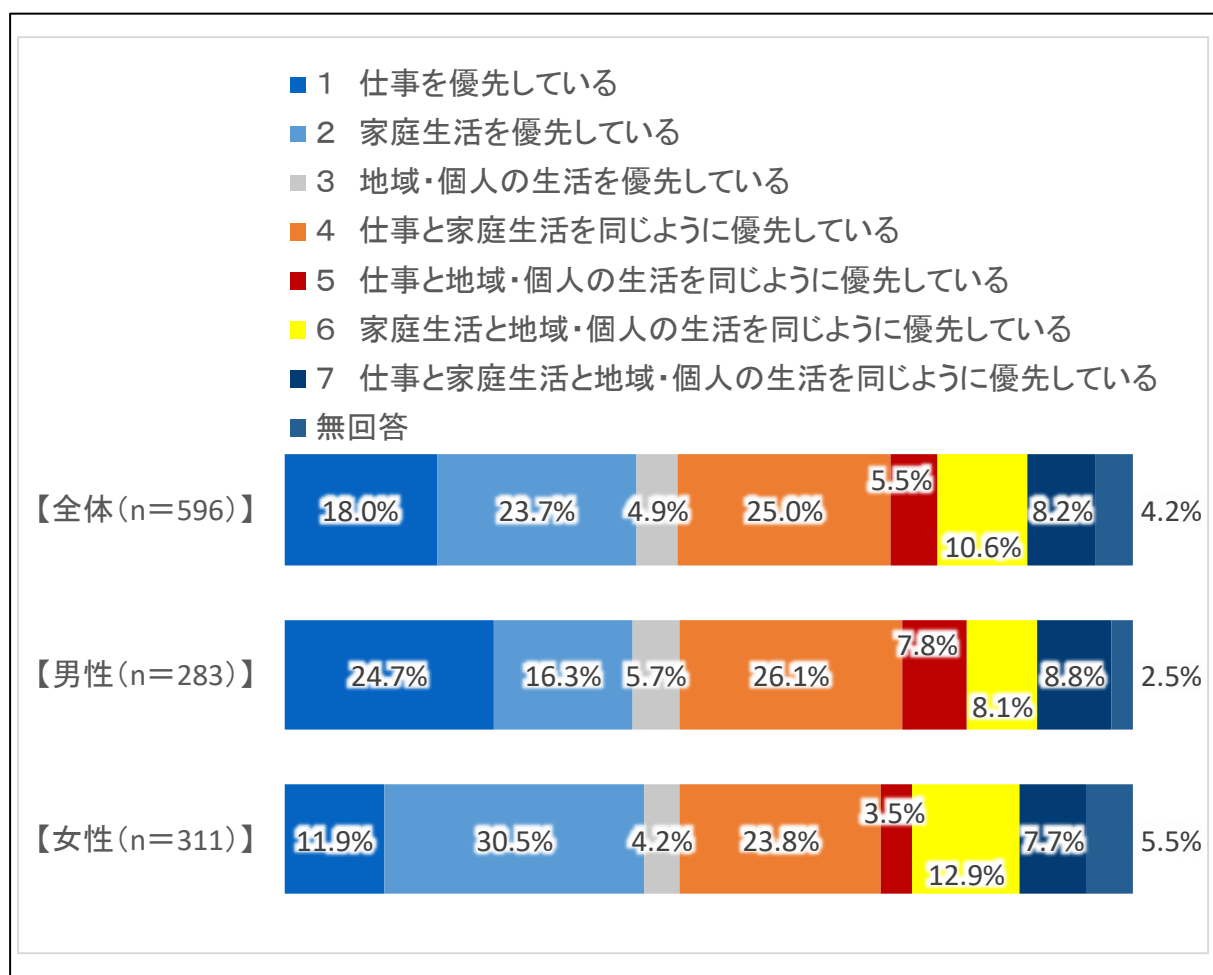
望ましいと思う優先度は、全体では「仕事と家庭生活を同じように優先させる」の割合が最も高く（30.5%）、次いで「仕事と家庭生活と地域・個人生活を同じように優先させる」（23.3%）、「家庭生活を優先させる」（15.6%）の順で選択されている。

性別でも、「仕事と家庭生活を同じように優先させる」が最も高いが、次点の「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を同じように優先させる」については、男性は24.7%、女性は22.2%、3番目の「家庭生活を優先させる」については、男性12.0%、女性19.0%で、次点と3番目の差が男性は約2倍以上あるのに比べ、女性は次点とその次の差は小さかった。

問7 あなたは、仕事、家庭生活、地域・個人の生活のどれを優先していますか。
(○は一つ)

※ 今回の調査から選択肢の末尾を「～させている」を「～している」に修正した。

■ 仕事、家庭生活、地域、個人の生活の優先について(現実)



現実の優先度は、全体では「仕事と家庭生活を同じように優先している」の割合が最も高い(25.0%)が、次点の「家庭を優先している」(23.7%)とさほど差はない。

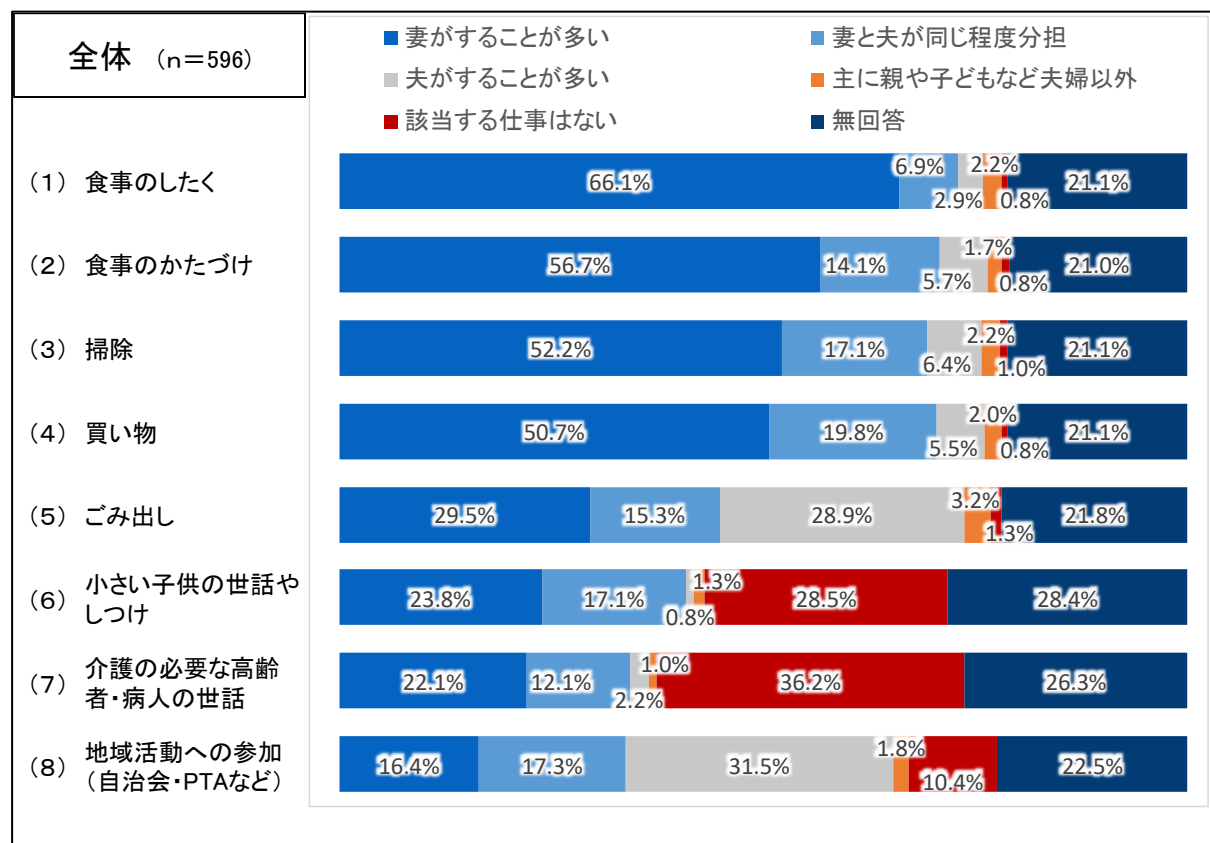
また、性別でみると、男性は「仕事と家庭生活を同じように優先している」(26.1%)が最も高く、3番目の「家庭を優先している」(16.3%)と約10ポイントの差がある。これに対し、女性は「家庭を優先している」(30.5%)が最も高く、次点が「仕事と家庭生活を同じように優先している」(23.8%)となった。

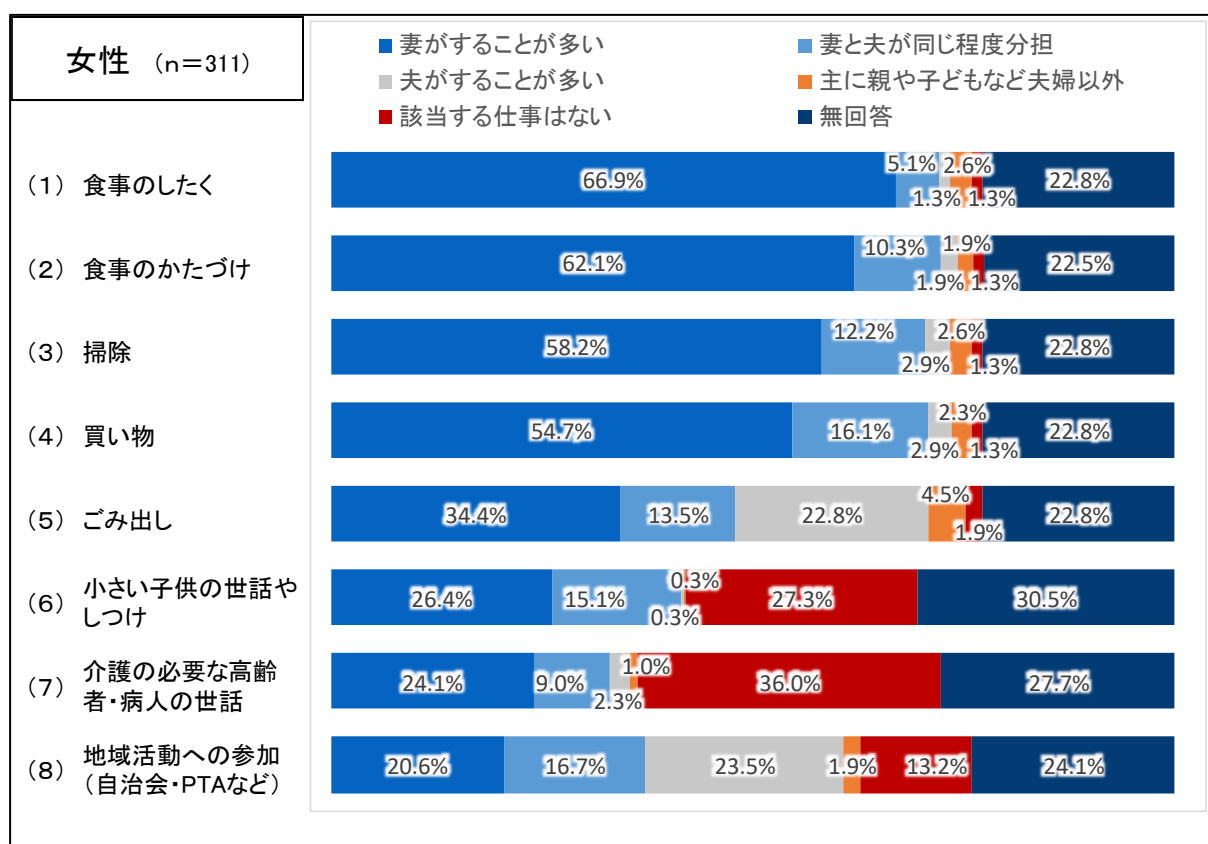
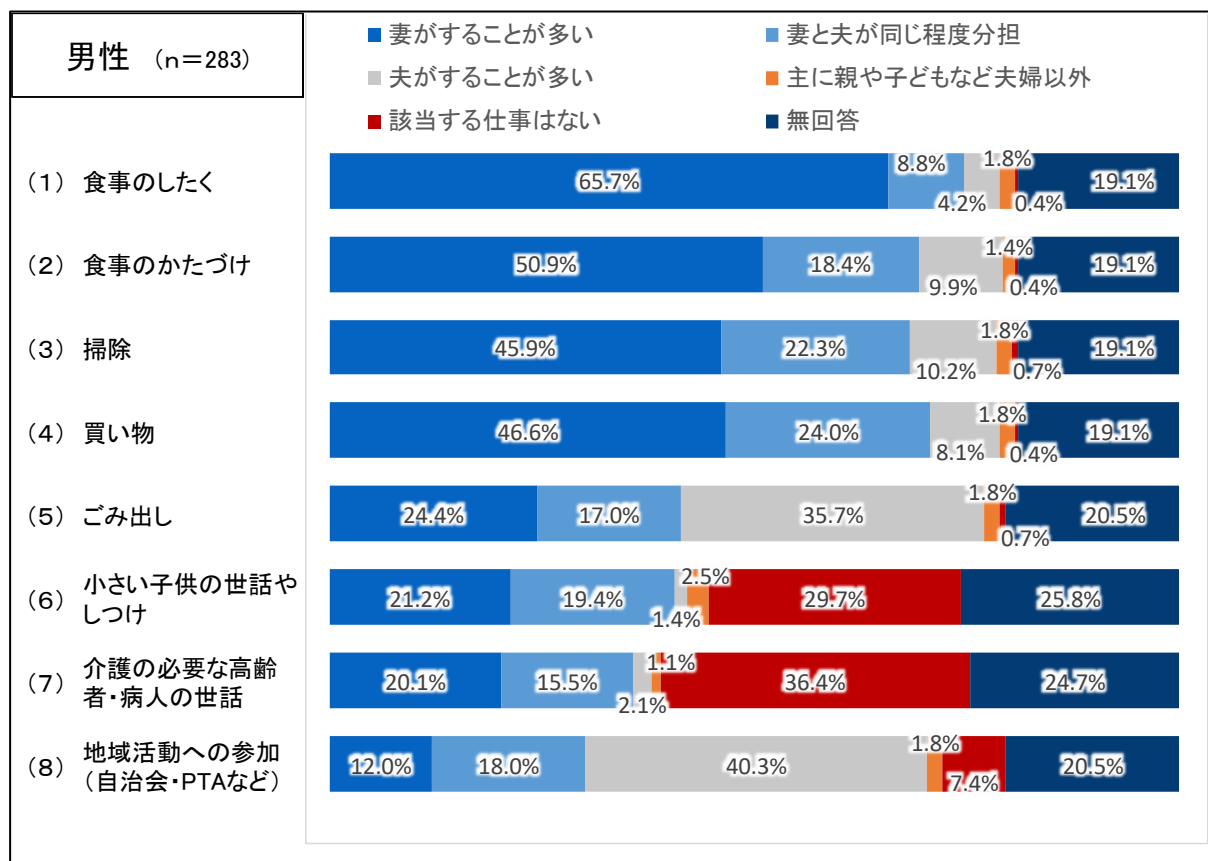
問6と比較すると、男性は、希望と現実が一致しているのに対し、女性は、仕事と家庭生活を同じように優先したいが、現実には家庭を優先しているという結果になった。

7 家庭内の役割分担について

問8 家庭の中で、次の仕事はどなたが担当されていますか。
(○は質問ごとに一つずつ)

■家庭内の仕事の役割分担(全体・性別)





全体でみると、家事・育児・介護に関する項目は、「該当する仕事はない」を除くと、「妻がすることが多い」の割合が高く、(1)「食事のしたく」に関しては、「妻がすることが多い」が66.1%で、「妻と夫が同じ程度」「夫がすること」「夫婦以外」はいずれも10%以下である。これは、性別でみても同じ割合である。

反対に「夫がすることが多い」の割合が多い項目は、(8)「地域活動への参加（自治会・PTA）」で31.5%であり、性別でみても同じことが言える。

全体と性別、それぞれで割合が高い項目についてみると、全体・女性ともに回答の割合は同じ傾向にあるが、男性の回答は(5)「ごみ出し」については、「夫がすることが多い」が高い割合を示している。

また、(8)「地域活動への参加」は全体・性別いずれも「夫がすることが多い」の割合が高いが、男性は「夫がすることが多い」(40.3%)、次いで「妻と夫が同じ程度の分担」(18.0%)、「妻がすることが多い」(12.0%)と1番と2番の差が倍以上になっている。

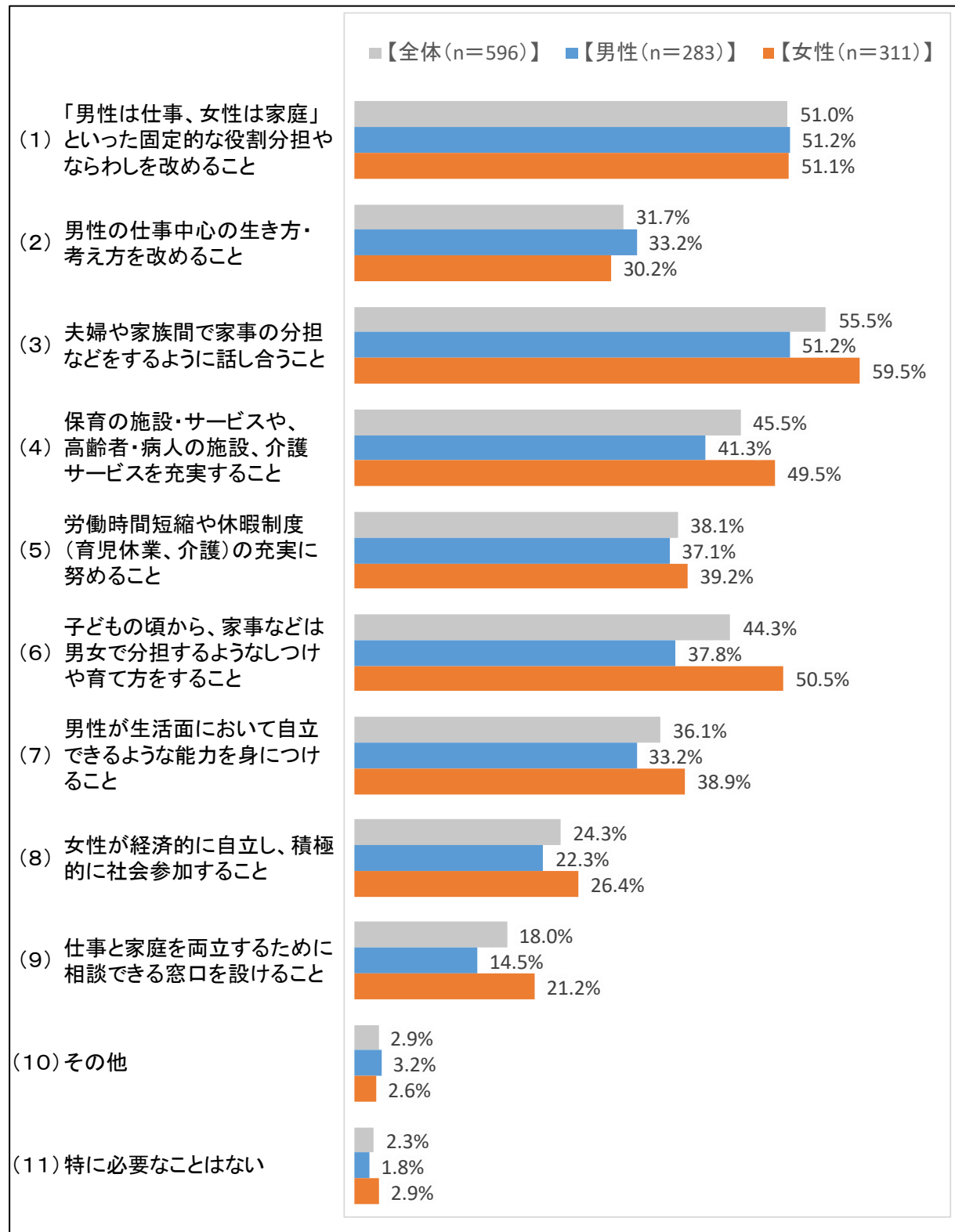
これに対し、女性は「夫がすることが多い」(23.5%)、次いで「妻がすることが多い」(20.6%)、「妻と夫が同じ程度の分担」(16.7%)と割合の差がさほどない。

このことから、家庭内の仕事の役割に対し、男性と女性の意識のずれがあると思われる。

8 男女共に家庭や社会生活に積極的に参加するために必要なことについて

問9 今後、男性・女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくため、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

■男女共に家庭や社会生活に積極的に参加するために必要なこと



全体では、(3)「夫婦や家族間で、家事の分担などをするように話し合うこと」と(1)『男性は仕事、女性は家庭』といった固定的な役割分担や慣習・ならわしを改めること」が5割以上、次に(4)「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実すること」、(6)「子どもの頃から、家事などは男女で分担するようなしつけや育て方をする事」が4割以上となっている。

男女別にみると、男性の回答は、(1)『男性は仕事、女性は家庭』といった固定的な役割分担や慣習・ならわしを改めること」と(3)「夫婦や家族間で家事の分担などをするように話し合うこと」がそれぞれ51.2%と高く、次いで(4)「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設、介護サービスを充実すること」(41.3%)となっている。

女性は、(3)「夫婦や家族間で、家事の分担などをするように話し合うこと」が59.5%と高い割合となっており、次いで(1)『男性は仕事、女性は家庭』といった固定的な役割分担や慣習・ならわしを改めること」(51.1%)、(6)「子どもの頃から、家事などは男女で分担するようなしつけや育て方をする事」(50.5%)となっている。

男女で回答に差があったものは、(6)「子どもの頃から、家事などは男女で分担するようなしつけや育て方をする事」で、男性は37.8%、女性は50.5%で、女性が12.7ポイント上回っている。

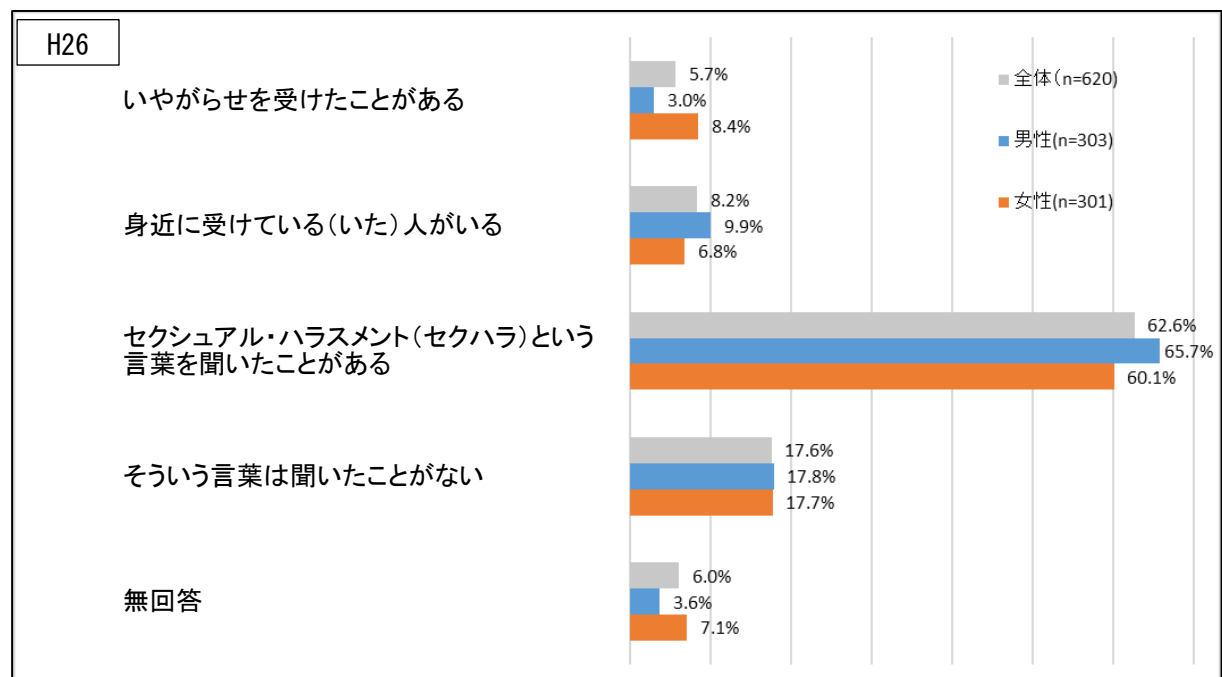
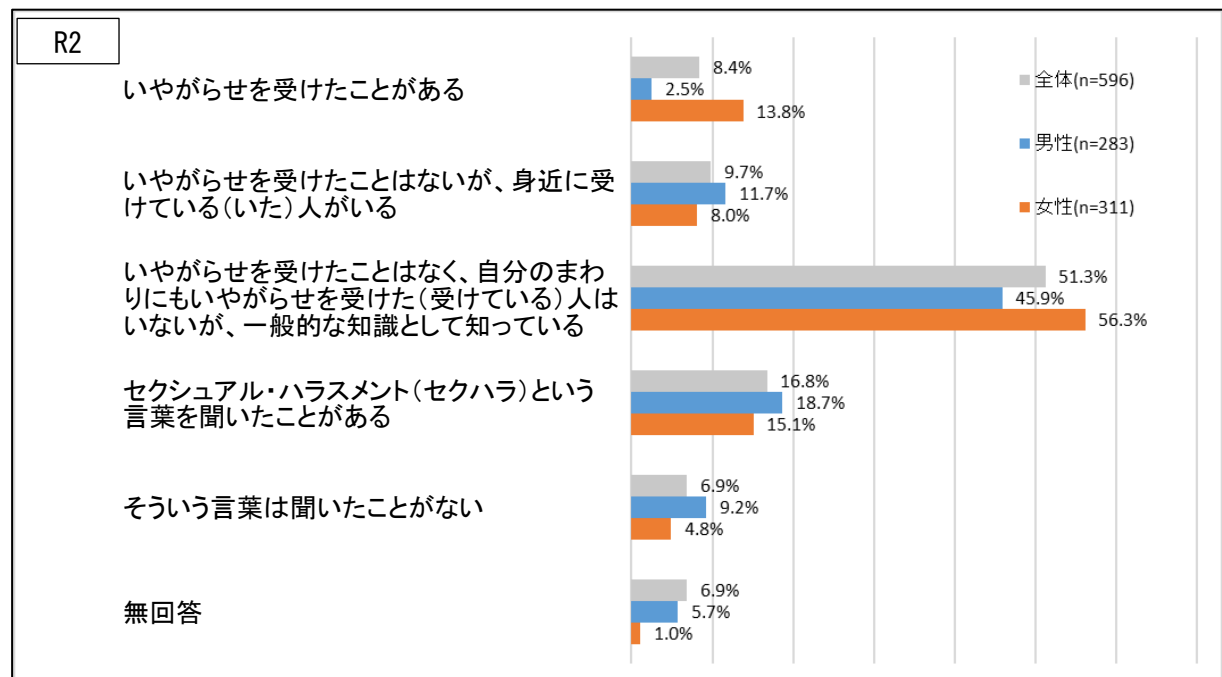
【選択肢「その他」の意見】

- ・ 男性にも育児休業を強制的にでも取得して育児に参加するべき。
- ・ 各家庭においての話し合い。他人へのおもいやり。
- ・ 個人個人が諸活動に積極的に参加しようと思う意識の問題だと思う。
- ・ 男女において格差はあってはならないと思うが、役割は平等ではない。
- ・ 自分自身の意識を変える教育だと思う。
- ・ 結婚したからと言っても妻がとか、夫がとか、分担するとか、決めるのも難しいと思います。今後結婚する人も少なくなると考えています。なので、自己で早いうちに考えることが大切かと思っています。
- ・ 福利厚生、賃金等が充実している企業の誘致や一部の工場及びその系列会社を複数誘致する。
- ・ 男性、女性という考え方より、その時その場で互いに出来る方が参加していけば良いと思う。
- ・ 男性の育休、育短の取得の推進がなければ、女性の負担は軽くなるはずがない。
- ・ 個人個人の性格や役割や、性別によって決めつけないこと。
- ・ 各人のやりたいことが出来るようにする。(男女の別なく)
- ・ 官民間わず、雇用主側の理解の拡充。
- ・ 人それぞれ色々な形があっても良いと思う。
- ・ 男女関係なく一人一人が自立し、家庭においては協働関係を築くこと。社会全体が子育てを優先できるしくみになっていくこと。

9 女性の人権について

問10 セクシュアル・ハラスメント（性的ないやがらせ）を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。
（○は一つ）

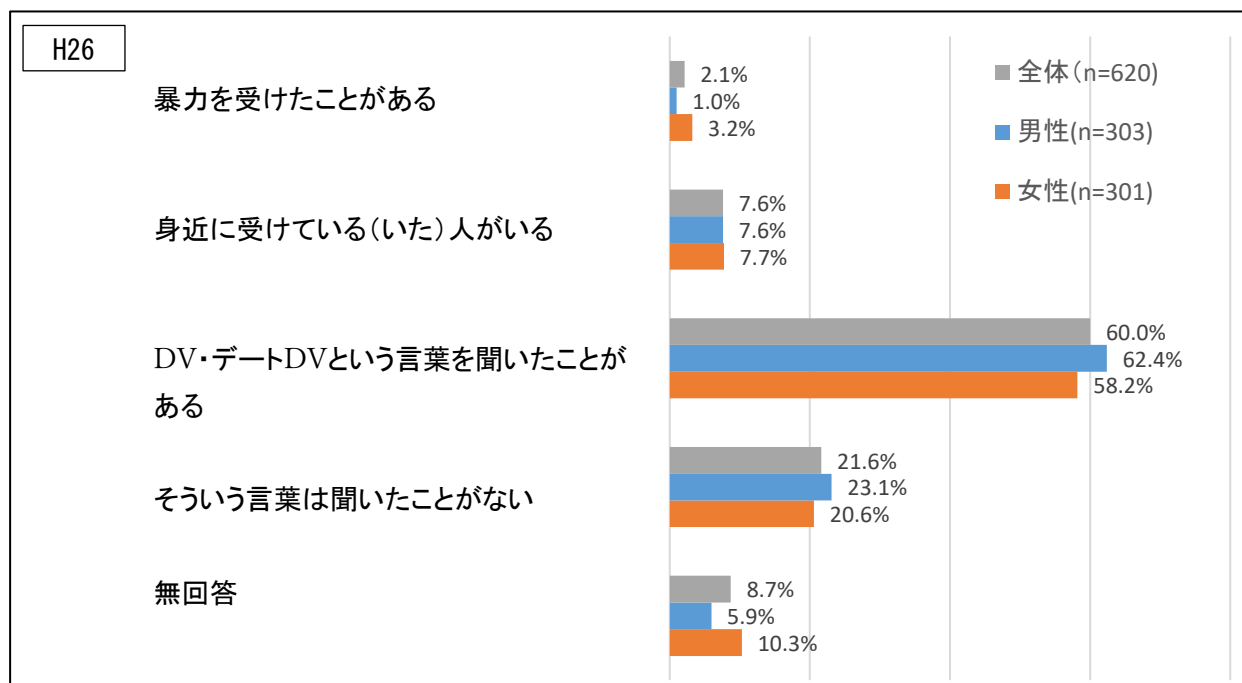
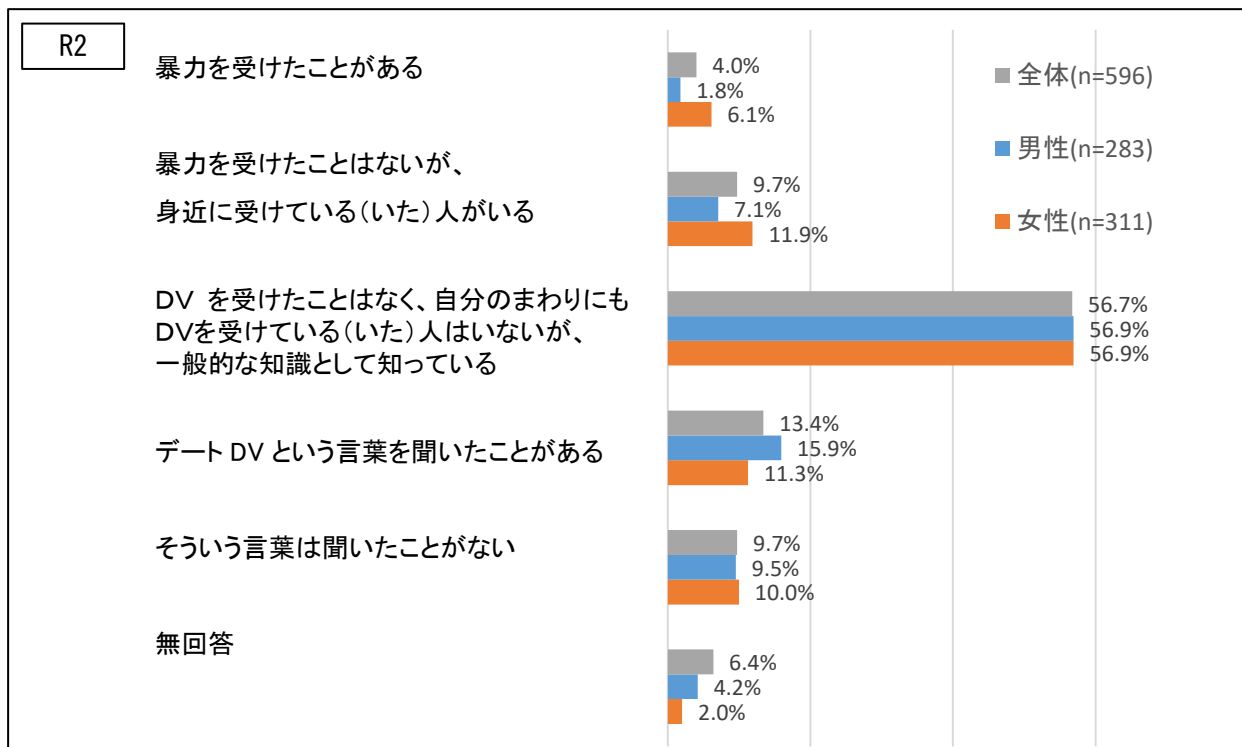
※ 今回の調査から、選択肢に「2 いやがらせを受けたことはないが」「3 いやがらせを受けたことはなく」など、自身についていやがらせを受けたかどうかの有無を入れた。



前回と比較して、「いやがらせを受けたことがある」人が増加し、女性は8.4%から13.8%と5.4ポイント増えている。「そういう言葉を聞いたことがない」という人は17.6%から6.9%と10.7ポイント減少している。

問 1 1 あなたは、ドメスティック・バイオレンス（DV）デートDVを経験したり、身近で見聞きしたことがありますか。
（○は一つ）

※今回の調査から、選択肢に「2 暴力を受けたことはないが、」「3 DVを受けたことはなく、自分のまわりにもDVを受けている（いた）人はいないが、一般的な知識として知っている。」を入れた。

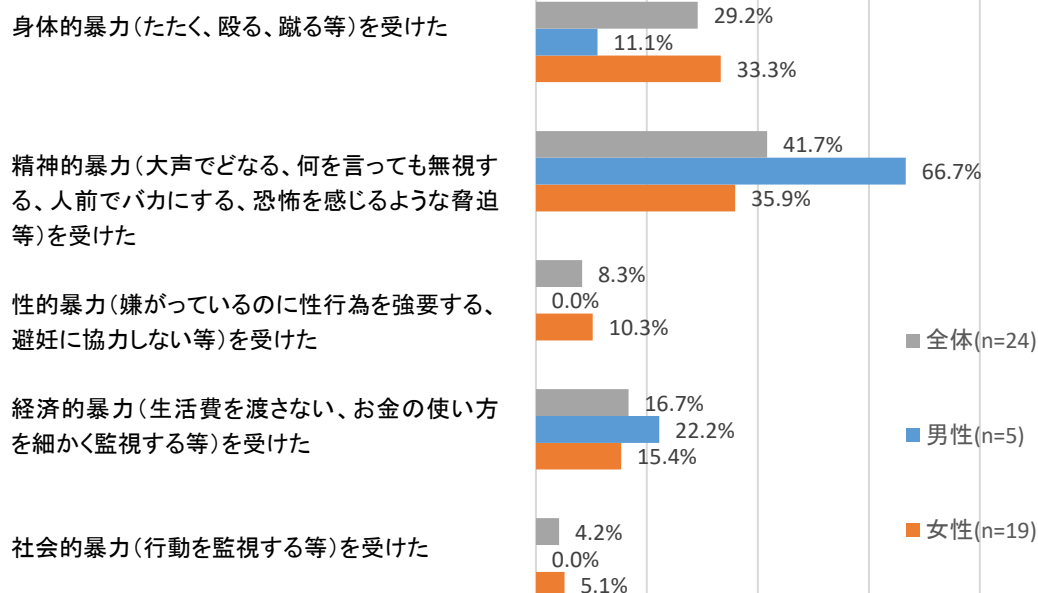


DV・デートDVという言葉を知ったことが無いと回答した人は、全体で 21.6%から 9.7%に減少した。

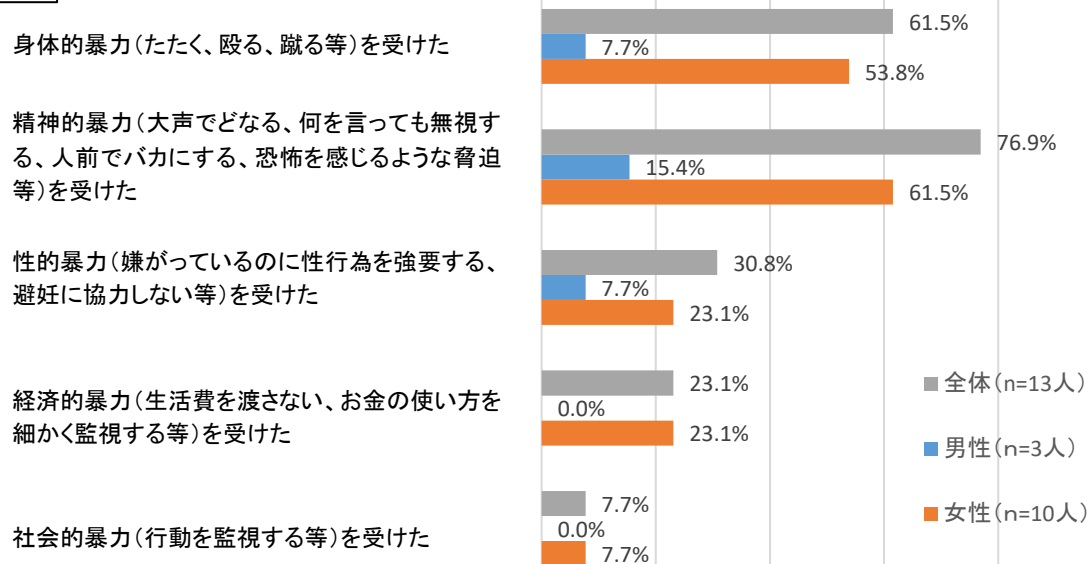
(問 11 で「暴力を受けたことがある」と答えた人のみ)

問 1 1－2 どのような暴力を受けましたか？
(○はいくつでも)

R2



H26



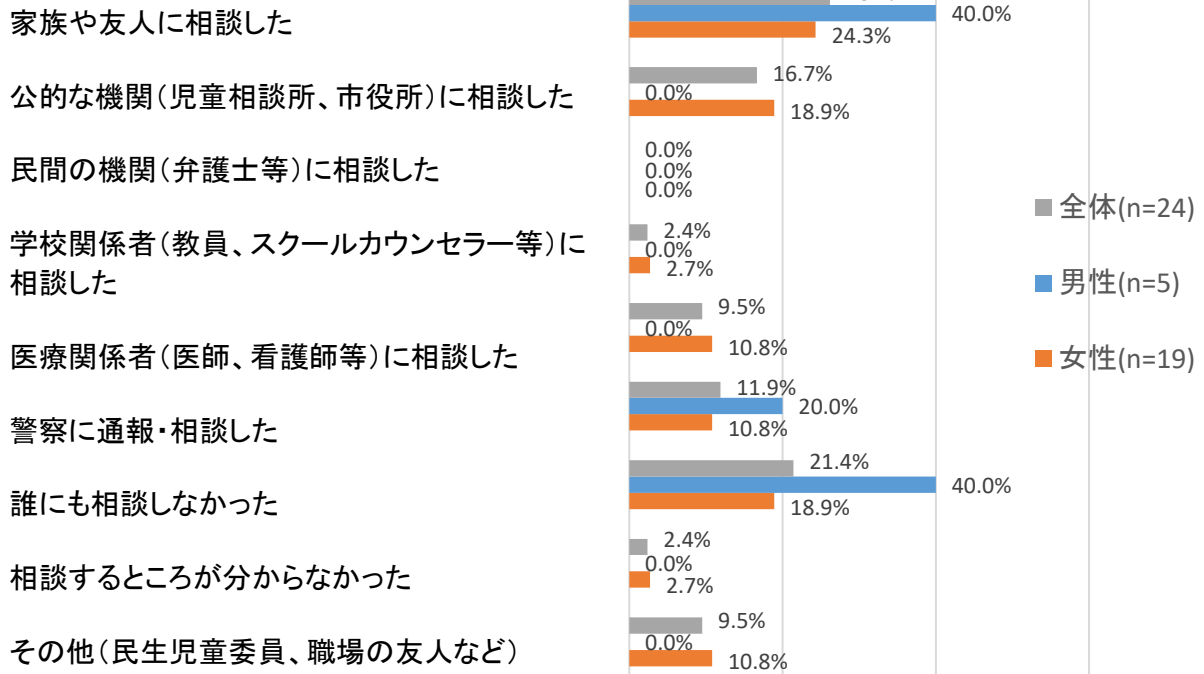
暴力を受けたことがあると答えた人のうち、精神的暴力と身体的暴力が多い。

また、今回は、精神的、経済的暴力を受けたことがあると回答した男性の割合が高くなっている。

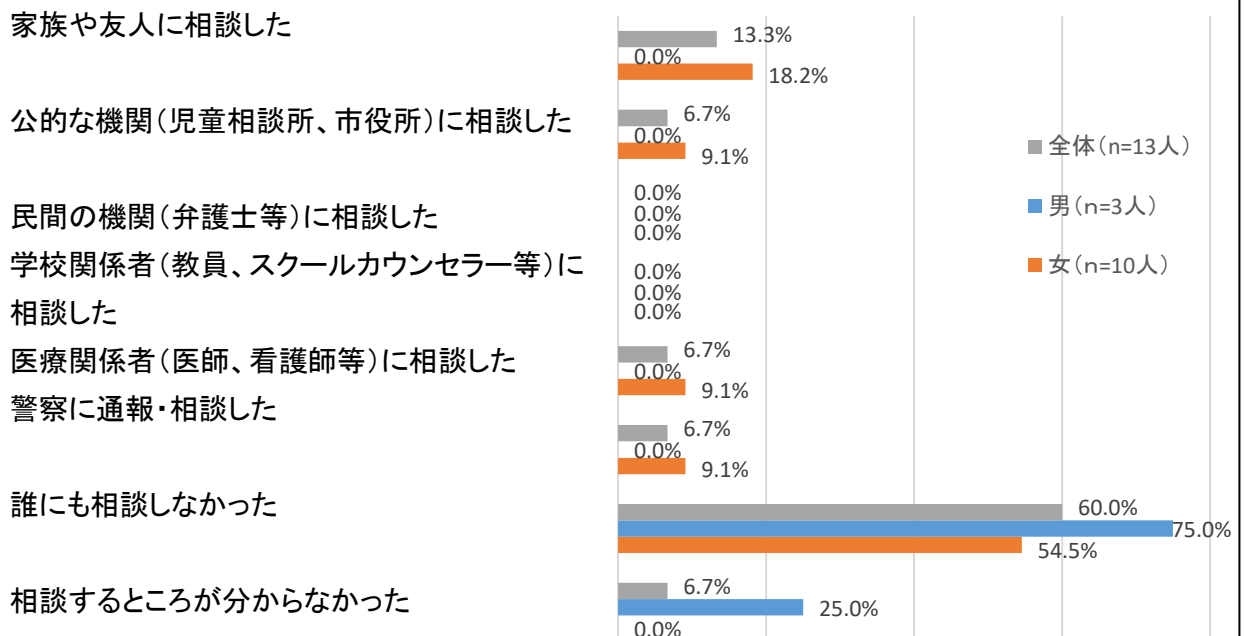
(問11で「暴力を受けたことがある」と答えた人のみ)

問11-3 あなたは暴力を受けた時に誰かに相談しましたか？
(○はいくつでも)

R2

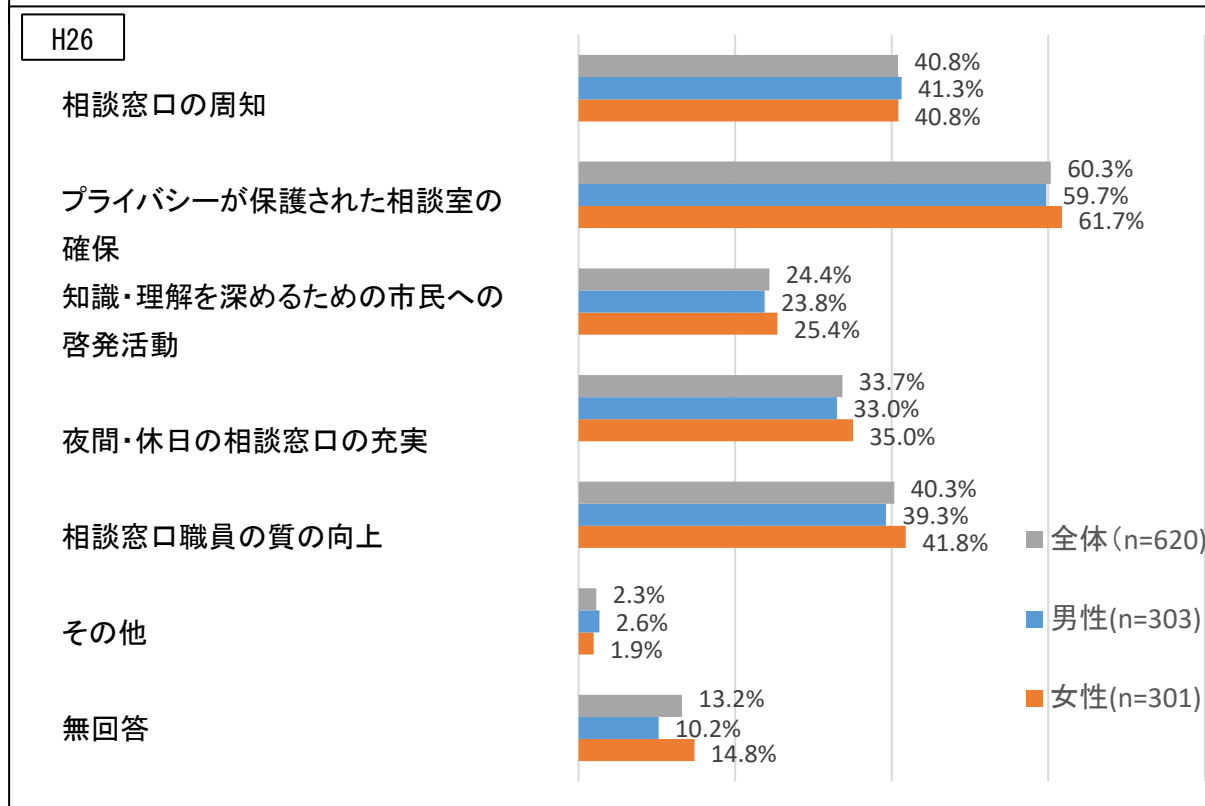
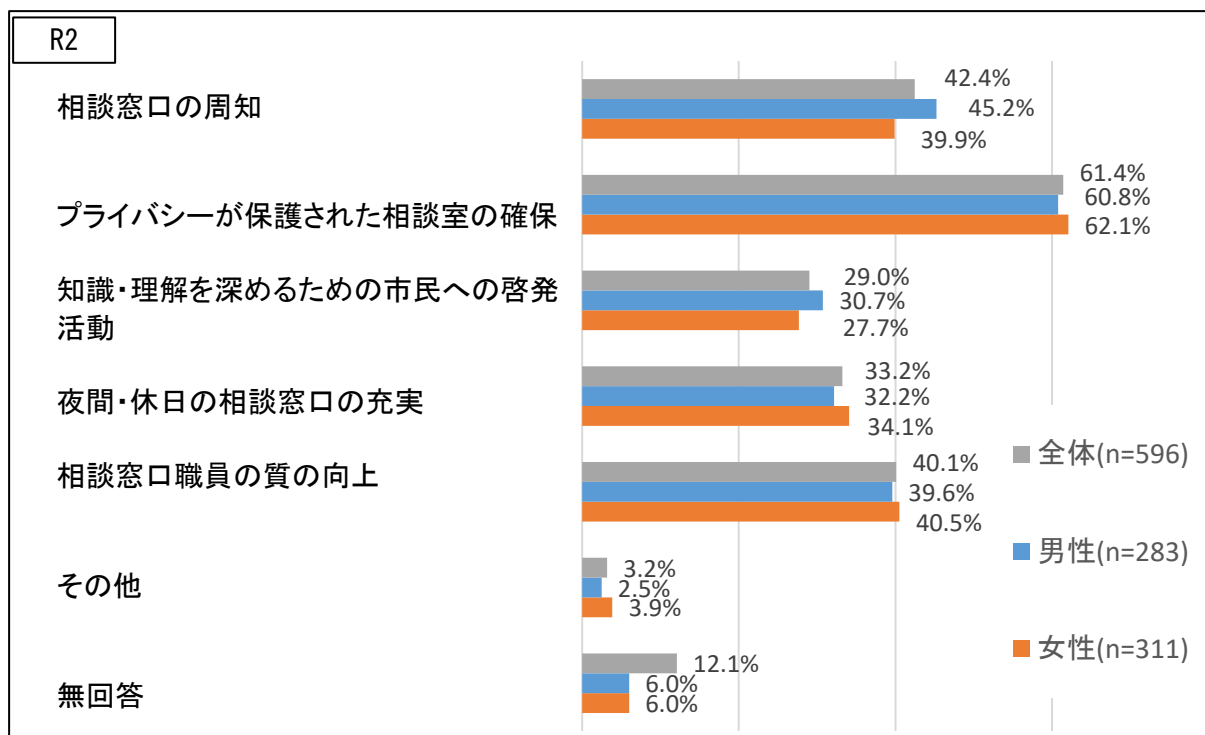


H26



前回と比較して、家族や友人に相談したり、公的な機関に相談した人の割合が高くなった。併せて、誰にも相談しなかった人の割合が、全体では60.0%から21.4%に減っている。

問12 DV被害者が相談しやすくするためには、どうしたらよいと思われますか？
(〇はいくつでも)



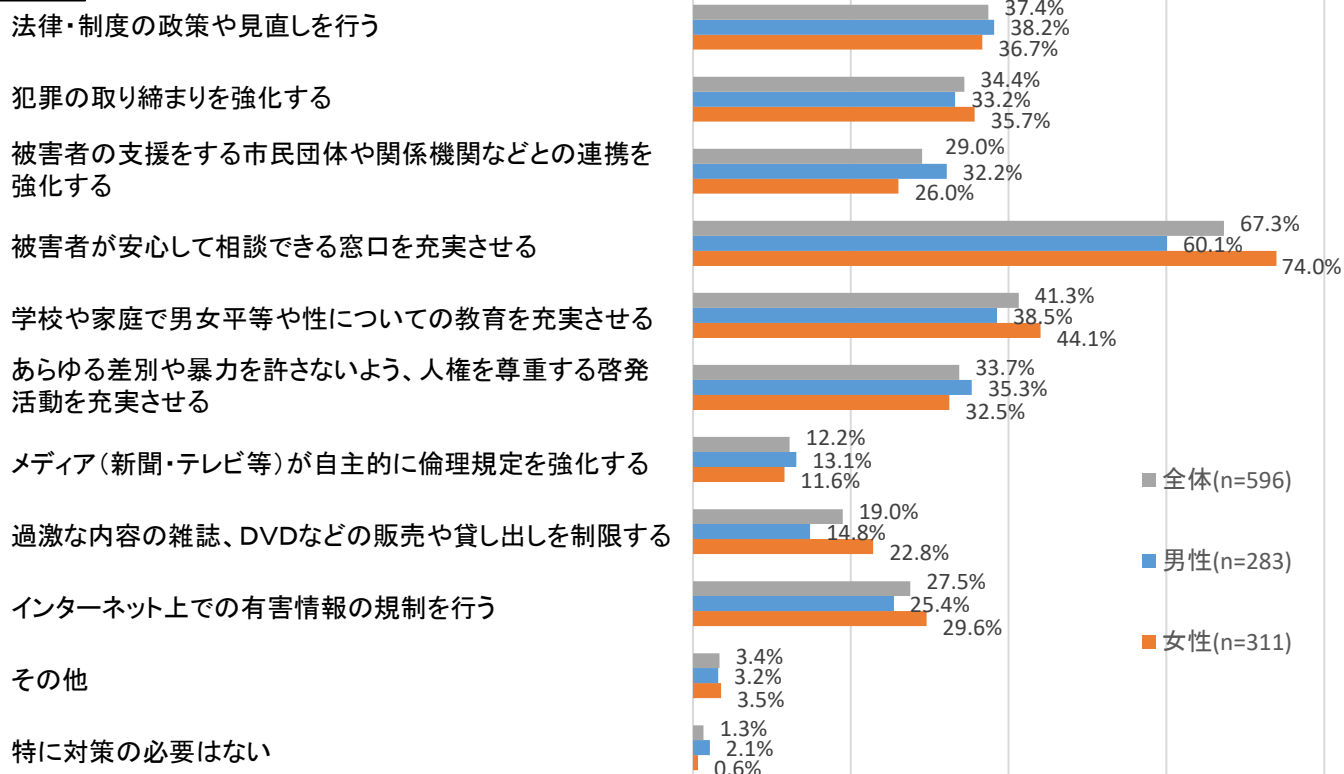
「プライバシーが保護された相談室の確保」を求める人が全体の61.4%、次いで「相談窓口の周知」が42.4%、「相談窓口職員の質の向上」が40.1%、「夜間休日の窓口開設」が33.2%となっている。

【選択肢「その他」の意見】

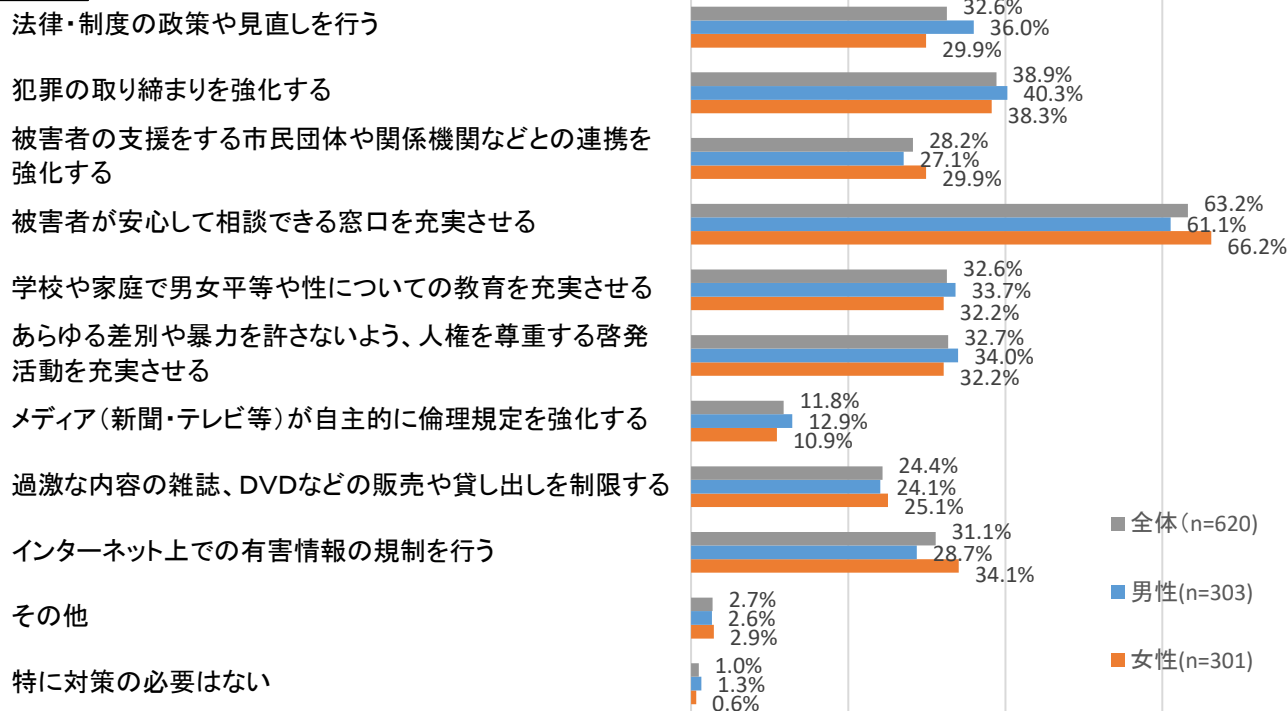
- ・ 窓口は必要だが、保護が約束されないと意味がない。
- ・ 警察官が協力的になること
- ・ 今の状況を知らないのではわからない。
- ・ もっと気軽に足を運べる場所（お寺など）があるといい。
- ・ 学校での教育。女性用トイレに相談先の紙を置くのは続けていくべきである。
- ・ 学校や職場など身近な人の聞き取りや身近な人の相談窓口があればよい。
- ・ 相談したあと、具体的にどう対処していくかを周知してほしい。
- ・ DV 被害者の身柄保護が最も必要。
- ・ 警察の訪問・見守りの増加。
- ・ 相談されたことなど個人情報の機密性を保つ。
- ・ 電話相談
- ・ SNS を使って、自宅からでもすぐに相談ができるシステム。
- ・ DV 被告者の救済システムの確立、DV 加害者へのアプローチ、指導。

問 1 3 性犯罪、夫婦間や恋人同士での暴力、セクシュアル・ハラスメント等の暴力をなくすためには、どうしたらよいと思いますか（〇はいくつでも）

R2



H26



男女ともに「被害者が安心して相談できる窓口を充実させる」が 67.3%と最も高い。次いで「学校や家庭で男女平等や性についての教育を充実させる」が 41.3%であった。

【選択肢「その他」の主な意見】

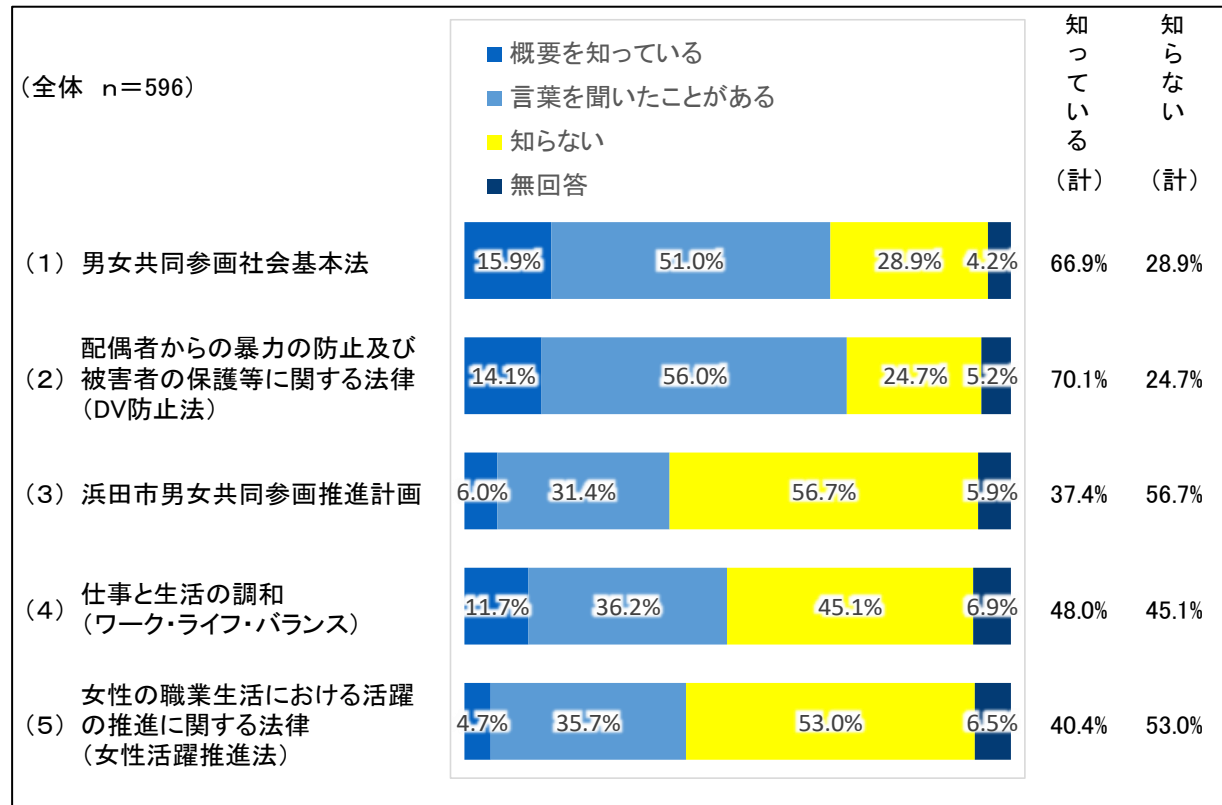
- ・ 当事者間の解決の方法がない場合は、法に従うしかない。
- ・ 家庭に警察等を入りやすくする。
- ・ 個人が自覚して冷静に判断できる環境をつくる。他人が防ぐのではなく、個人の問題である。
- ・ 犯罪が起りやすい場所での対策強化（電車など）、男女共に許さない姿勢を見せる。
- ・ 罰則を強化する。厳罰。
- ・ 罪に対する意識が低く、刑罰を厳しくしてほしい。（特に子供への性犯罪）
- ・ 相談してもうまく解決できると思えないので、どう対処するのか具体例をもっと会社や家庭などに情報を流して欲しい。（実際に相談しても解決にならなかった）
- ・ 家庭内においても話し合いや教育が必要と思う。
- ・ どれも必要だが性犯罪や夫婦間の問題は外に出にくいものだ。それ故、その問題を外に出せる体制づくり。そして、身柄を保護できる体制づくり。
- ・ テレビ、メディアから相談窓口があるということの広報（児童虐待は周知されるようになってきた）。
- ・ 加害者へのアプローチ、二度としないように人権教育など処罰ではなく意識改革が必要→子どもたちからの人権意識で予防。
- ・ 性犯罪やDVを行う人がどうしてそうなったかの背景を調べ、人がそうならない様に育てる子育て期からの家庭環境、社会環境が重要。

10 男女共同参画に関する用語等について

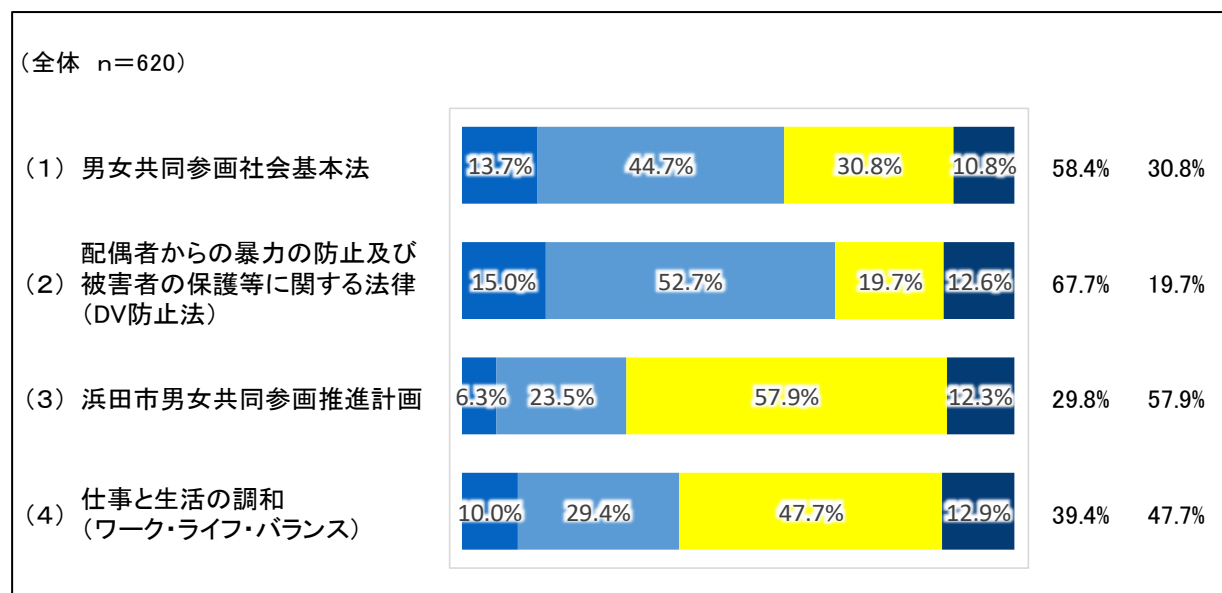
問 1 4 女性を取り巻く問題に関する次の言葉やことがらについて、知っていますか
(○は質問ごとに一つずつ)

※ 今回の調査から新たに（５）女性活躍推進法を追加した。

■男女共同参画に関する言葉の認知度（全体）



■男女共同参画に関する言葉の認知度（H26 年度浜田市アンケート）



「概要を知っている」の割合が最も高かったのは、(1)「男女共同参画基本法」(15.9%)で、次いで(2)「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」14.1%、(4)「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」(11.7%)である。

そして、「言葉を聞いたことがある」の割合が高いのは、(2)「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」(56.0%)、次いで、(1)「男女共同参画基本法」(51.0%)、(4)「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」(36.2%)である。

これに対して、「知らない」の割合は(3)「浜田市男女共同参画推進計画」(56.7%)で、次いで、(5)「女性の職業における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」(53.0%)、(4)「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」(45.1%)となっている。

また、今回新たに選択肢に入れた(5)「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」について、「概要を知っている」の割合は4.7%と低い割合だが、「知っている」＝「概要を知っている」＋「言葉を聞いたことがある」の割合で見ると、40.4%となっている。

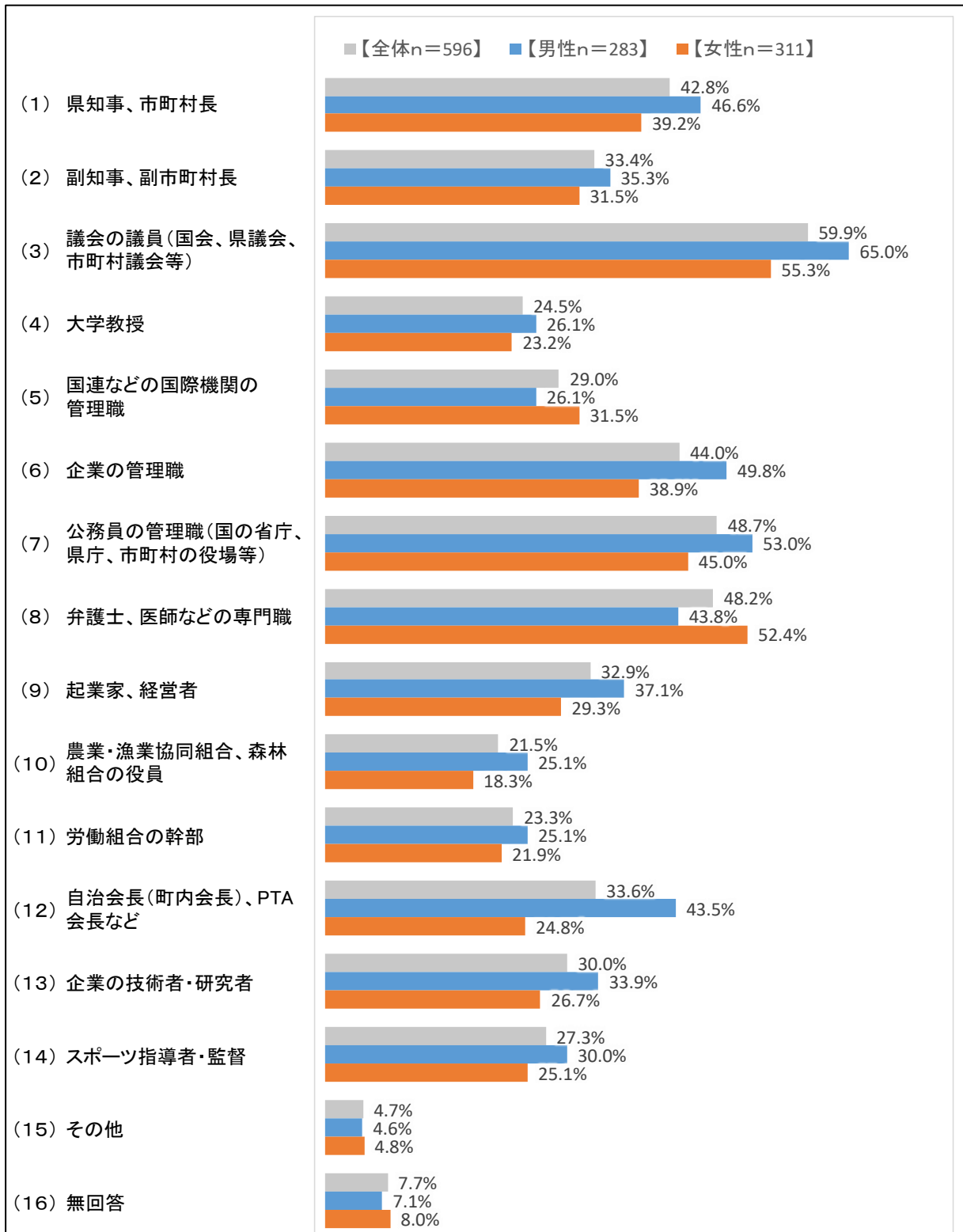
平成26年度調査と比べて認知度(知っている:「概要を知っている」＋「言葉を聞いたことがある」)が上がったのは、(4)「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」(39.4%→48.0% 8.6ポイント増)で、次いで、(1)「男女共同参画基本法」(58.4%→66.9% 8.5ポイント増)である。一方、「知らない」の割合が高くなったものは、(2)「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」(19.7%→24.7% 5ポイント増)となった。

11 女性の社会参画について

問15 あなたは、今後どのような職業や役職において、女性が増えるほうが良いと思いますか。
(〇はいくつでも)

※ 今回の調査から新設した設問である。

■女性が増える方がよい職業や役職(全体・性別)



「今後どのような職業や役職において、女性が増えると良いと思うか」の回答（複数回答可）で最も割合が高いのは、全体では（3）「議会の議員（国会、県議会、市町村議会等）」（59.9%）で、次いで、（7）「公務員の管理職」（48.7%）、（8）「弁護士、医師などの専門職」（48.2%）で半数に近い割合となった。

性別でみると、男性の回答では（3）「議会の議員（国会、県議会、市町村議会等）」（65.0%）が最も高く、全体の59.9%と比べても5.1ポイント高くなっている。次いで、（7）「公務員の管理職」（53.0%）、（6）「企業の管理職」（49.8%）となっている。

女性の回答は、（3）「議会の議員」が最も高い割合（55.3%）で、次いで、（8）「弁護士、医師などの専門職」（52.4%）、（7）「公務員の管理職」（45.0%）となった。

また、男女で選択率の差を見てみると、（6）「企業の管理職」は男性49.8%、女性38.9%で10.9ポイント差、次いで、（3）「議会の議員」の男性65.0%、女性55.3%で9.7ポイント差となった。

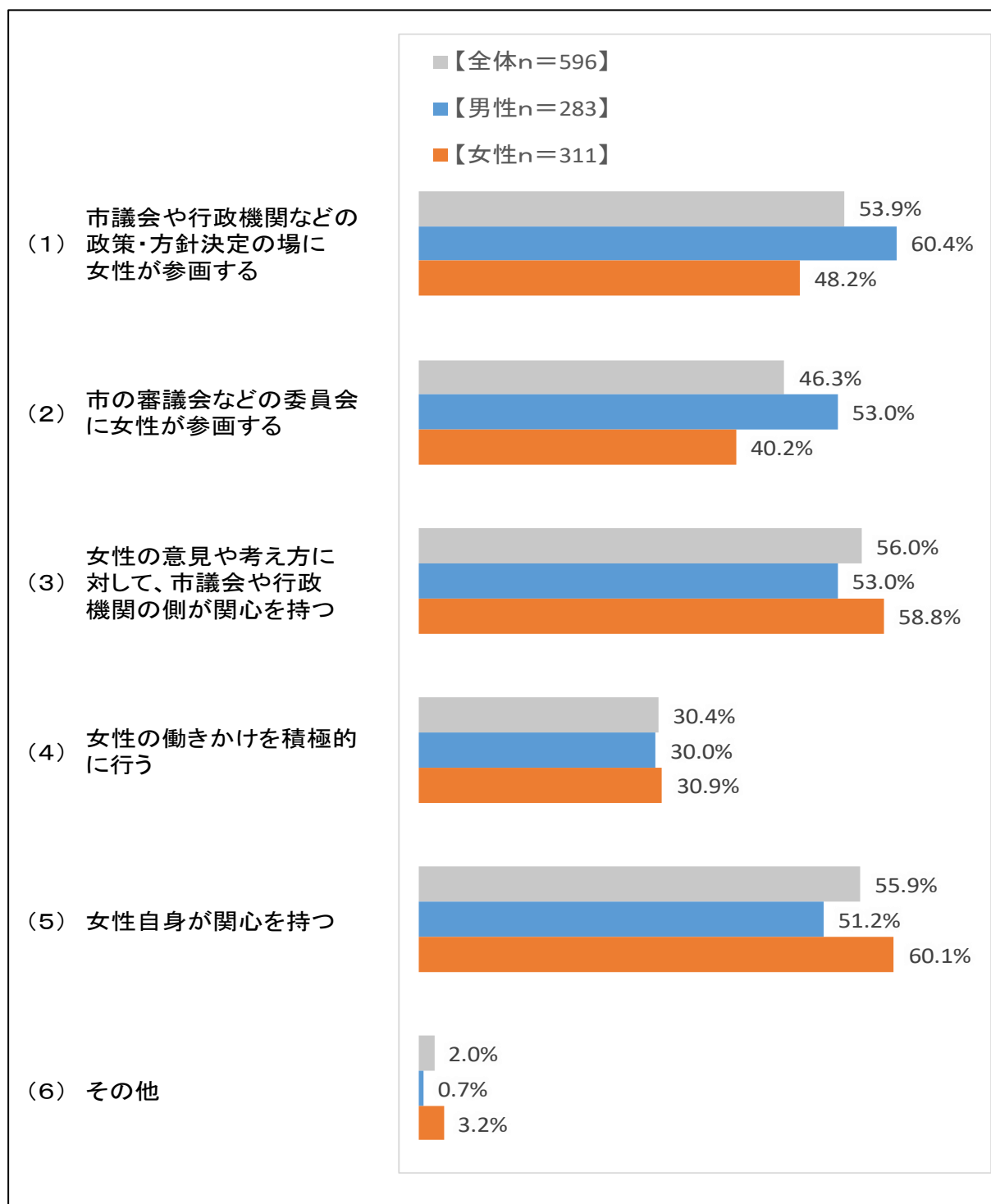
【選択肢「その他」の意見】

- ・ ありません。
- ・ 男女問わずその職業やその職に適した人。
- ・ 分かりません。
- ・ 上記になりたい女性は目指せば良い。
- ・ 設計士。効率的なアイデアが出そうな予感がする。
- ・ 全ての職業・役職において。
- ・ 特定はできない。個人の能力において決めるべきである。
- ・ 公共交通機関の運転手。
- ・ 出来る人がやればよい。
- ・ やりたければなんでも。
- ・ 増えるべき人物なら増えた方が良い。
- ・ 男性女性を問わず能力で。
- ・ わからない。
- ・ 全て。男女の平等になると良いと思う。必ずしも女性が男性が良いと思うような職業が上記にはない。

問 16 あなたは、女性の意見や考えを市の施策に反映させるためには、どう
いったことが必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

※ 今回の調査から新設した設問である。

■女性の意見等を市の施策に反映させるために必要なこと(全体・性別)



市政に女性の意見を反映させる方法として（複数回答可）、最も割合が高いのは、全体では(3)「女性の意見や考え方に対して、市議会や行政機関の側が関心持つ」(56.0%)で、次いで、(5)「女性自身が関心を持つ」(55.9%)、(1)「市議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が参画する」(53.9%)で半数を超える割合となった。

性別で見ると、男性の回答では(1)「市議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が参画する」(60.4%)が最も高く、全体の53.9%と比べても6.5ポイント高い。次いで、(2)「市の審議会などの委員会に女性が参画する」(53.0%)、(3)「女性の意見や考え方に対して、市議会や行政機関の側が関心を持つ」(53.0%)と同率となった。

女性の回答は、(5)「女性自身が関心を持つ」(60.1%)が最も高く、次いで、(3)「女性の意見や考え方に対して、市議会や行政機関の側が関心を持つ」(58.8%)で過半数を占めた。

また、男女で選択率の差を見てみると、(2)「市の審議会などの委員会に女性が参画する」で男性が53.0%、女性が40.2%で12.8ポイント差、次いで、(1)「市議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が参画する」は、男性が60.4%、女性が48.2%で、12.2ポイント差となった。

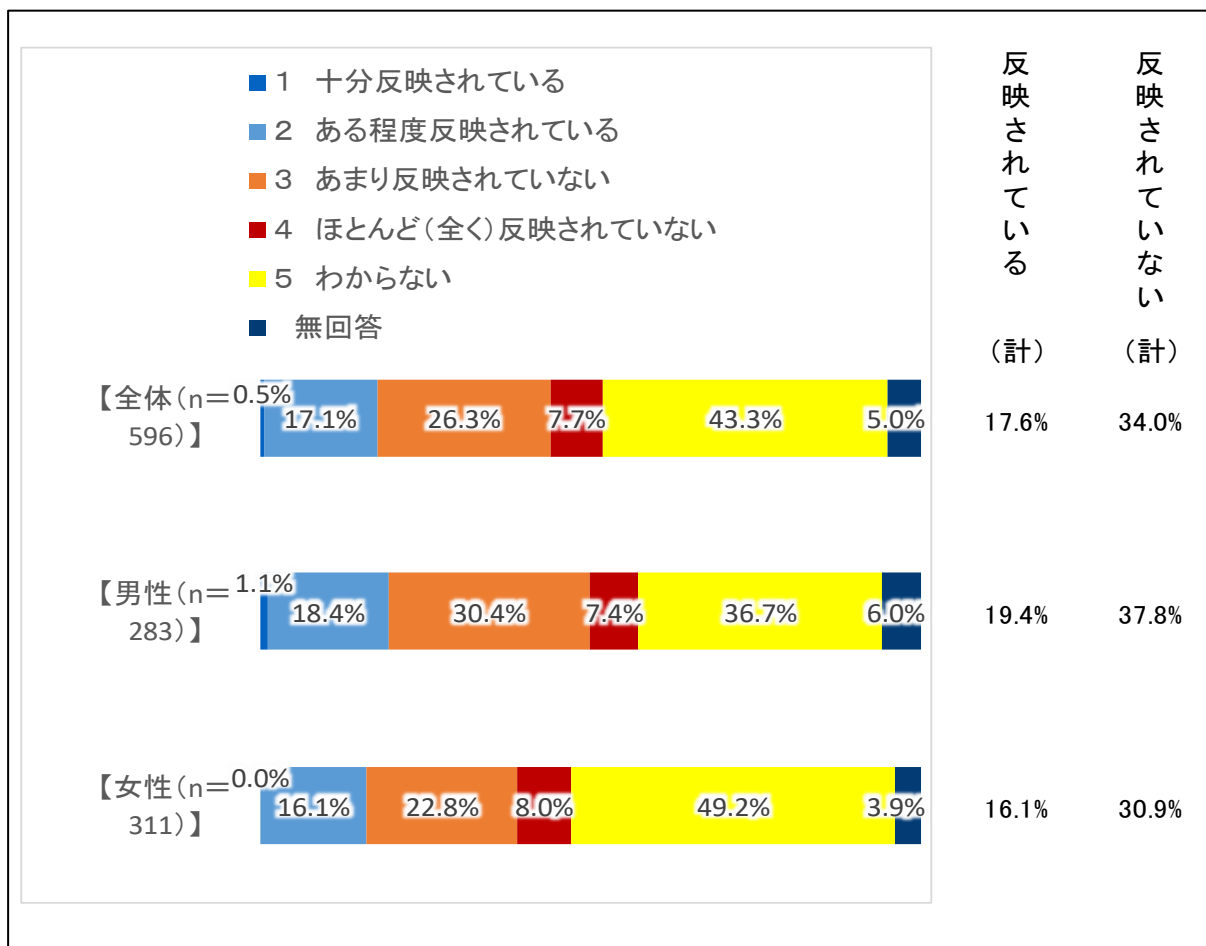
【選択肢「その他」の意見】

- ・ ワーキングママに対するアンケートや現状を把握する。
- ・ 分からない。
- ・ 今の不平等な状態で、さらに女性に色々求められても負担が増えるだけなので、それを改善してからにしてほしい。
- ・ 学校教育での学習機会が必要（女性のキャリア意識）。男性を対象とした男女共同参画の研修会。男性の意識変容。
- ・ 問16は女性を見下したような質問である。（市の施策に女性の意見を反映させるために、女性自身が）関心がないのではなく、あきらめている。
- ・ 分からない。浜田市はどうか分からない。

問 1 7 あなたは、市の施策について、女性の意見や考えがどの程度反映されていると思いますか。
(○は一つ)

※ 今回の調査から新設した設問である。

■女性の意見の反映度(全体・性別)



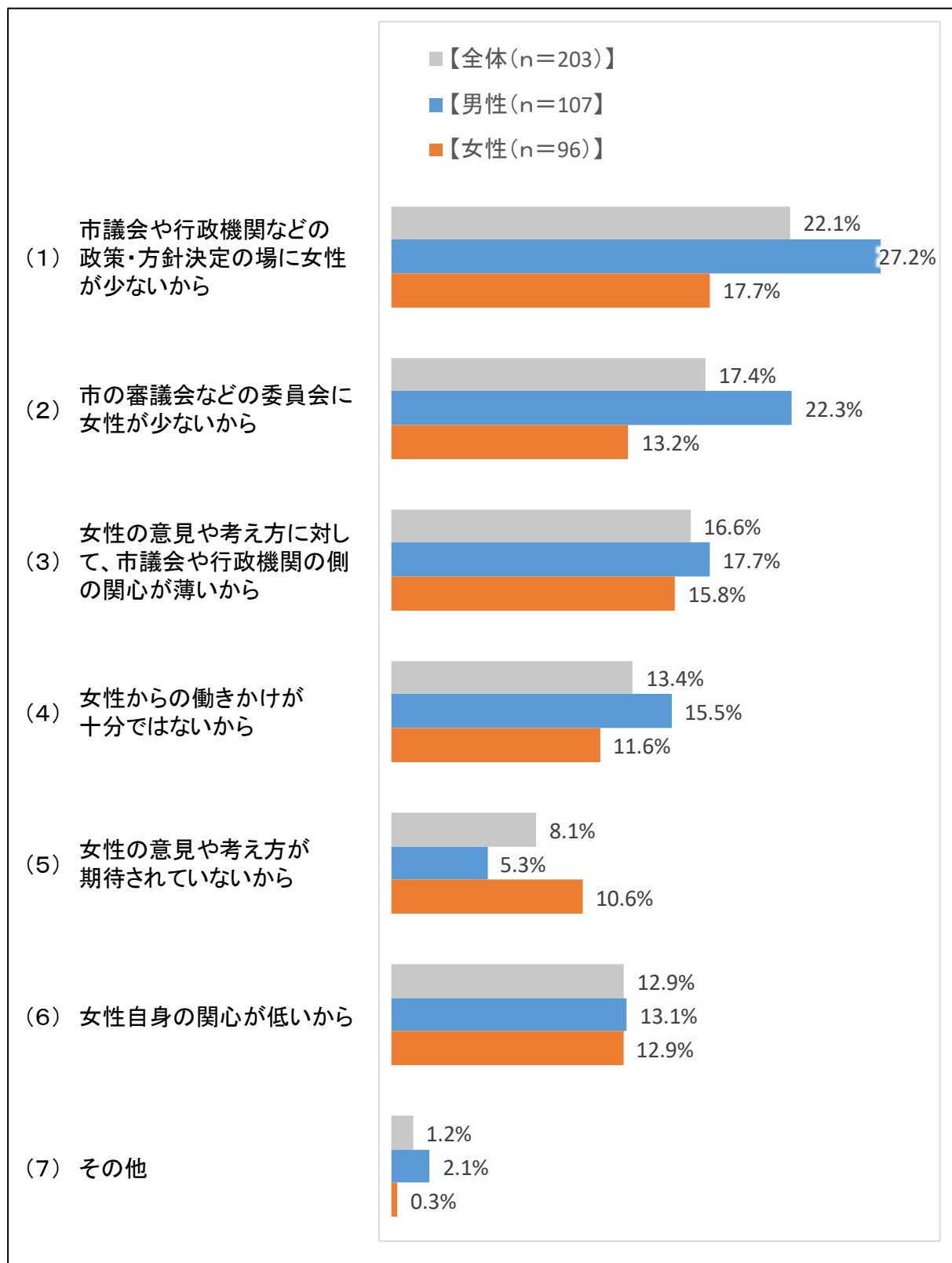
女性の意見や考えがどの程度反映されているかという質問について、「十分反映されている」(0.5%)と「ある程度反映されている」(17.1%)と回答した割合の合計は17.6%、反対に「あまり反映されていない」(26.3%)「ほとんど(全く)反映されていない」(7.7%)と回答した人の割合の合計は34.0%で、反映されている割合をかなり上回っている。また、「わからない」(43.3%)とする回答も半数近い。

性別でみると、男性は「十分反映されている」(1.1%)と「ある程度反映されている」(18.4%)の合計は19.4%で、「わからない」の割合は36.7%。女性は「十分反映されている」については0%で、「わからない」の割合は、49.2%で半数近い回答である。

(問17で「あまり反映されていない」、または「ほとんど(全く)反映されていない」と回答した方のみ)

問17-2 市の施策に女性の意見や考え方が、反映されていないと思う理由は何ですか。
(〇はいくつでも)

■女性の意見が反映されていないと思う理由



前問で市政に女性の意見が反映されていない（「あまり反映されていない」＋「ほとんど反映されていない」）と回答した人（全体 203 人、うち男性 107 人、女性 96 人）にその理由を尋ねたところ（複数回答可）、全体では、(1)「市議会や行政機関などの政策・方針決定の場に女性が少ないから」（22.1%）が最も高く、次いで(2)「市の審議会などの委員に女性が少ないから」（17.4%）、(3)「女性の意見や考え方に対して、市議会や行政機関の側の関心が薄い」（16.6%）となった。

また、それぞれの回答で最も割合が高かった (1)「市議会等の政策・方針決定の場に女性が少ないから」については、男性 27.2%、女性 17.7%（9.5 ポイント差）で男性の割合が多い。また、選択肢の中で唯一女性の割合が高い回答の選択肢である (5)「女性の意見や考え方が期待されていないから」については、男性 5.3%、女性 10.6%（5.3 ポイント差）であった。

【選択肢「その他」の意見】

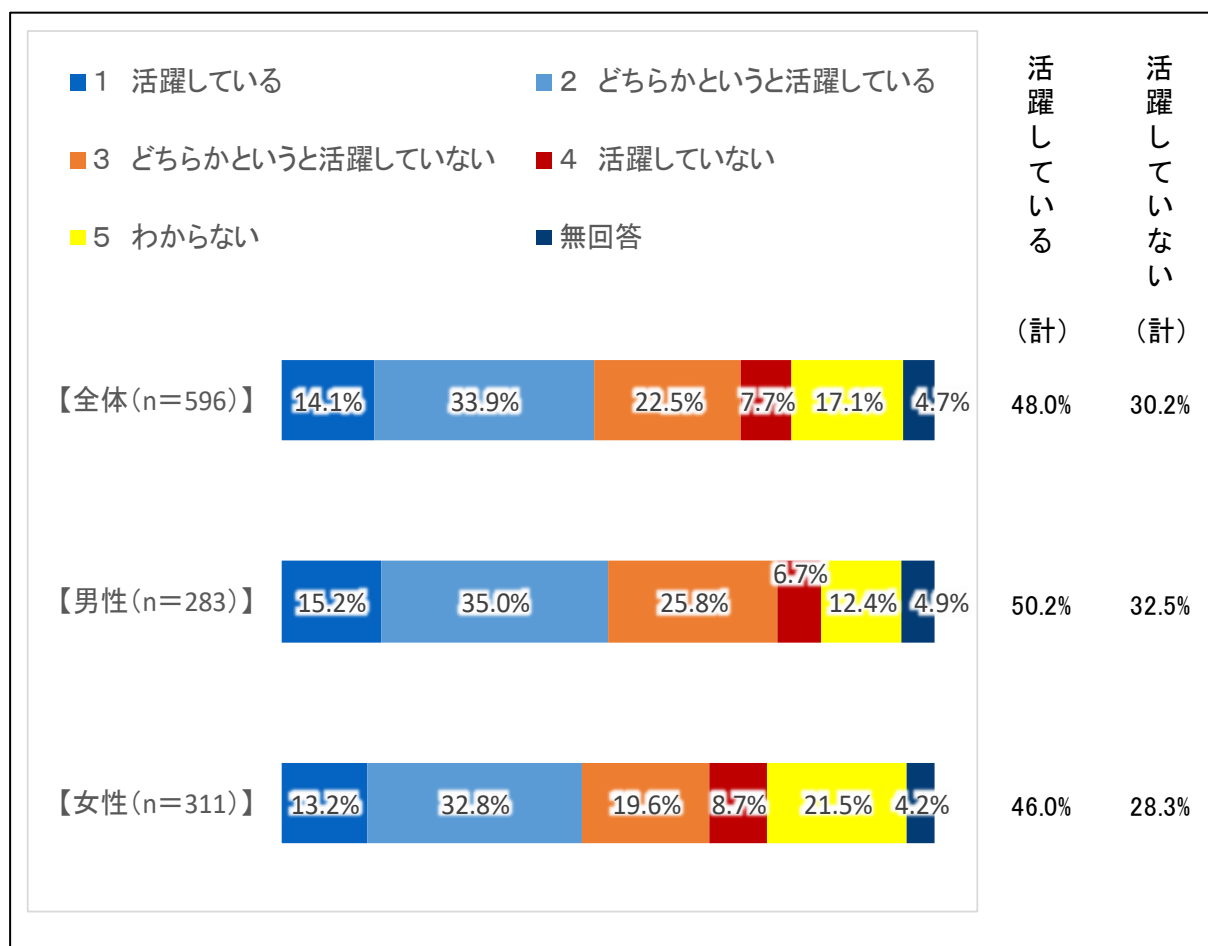
- ・ なにもしていないのではないかな。
- ・ 女性の議員が少ない。
- ・ 当事者に意見を聞くべき。
- ・ 男性が女性の考えを本当に反映させたいと思っていないから。
- ・ 女性にもっと参画してもらいたいこと等、市、議会、積極的に考えてもらいたい。女性の意見は思いやりのある、貴重な、また、懐の深い想いがあると思います。

12 女性の活躍促進について

問 1 8 あなた自身あるいはあなたの身近にいる女性は、仕事や地域活動で活躍していると思いますか。
(○は一つ)

※ 今回の調査から新設した設問である。

■仕事や地域活動での女性の活躍度



自分自身または身近な女性が活躍していると思うかという質問について、全体では、「活躍している」(14.1%)と「どちらかという活躍している」(33.9%)と回答した割合の合計は、48.0%と半数に近いが、反対に、「どちらかという活躍していない」(22.5%)と「活躍していない」(7.7%)の合計は30.2%で、約3人に1人は女性が活躍していないと思っている。

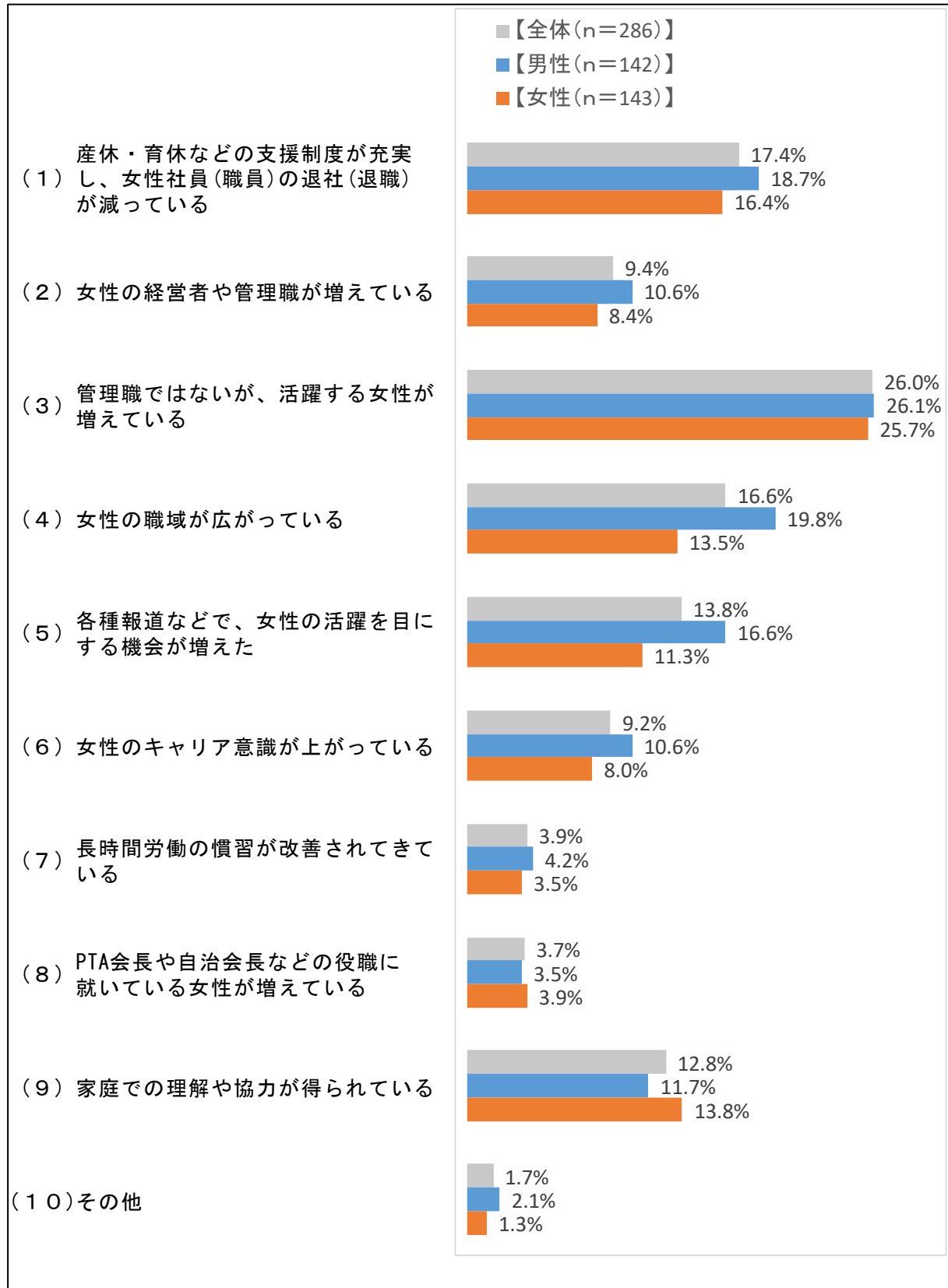
性別でみると、男性は「活躍している」(15.2%)と「どちらかという活躍している」(35.0%)の合計は50.2%で、過半数を占める回答となった。また、女性は「活躍している」(13.2%)と「どちらかという活躍している」(32.8%)の合計は46.0%となった。女性が活躍していると思う男性の回答が4.2ポイント上回っている。

一方、「活躍していない」と「どちらかという活躍していない」と思う割合の合計は、男性が32.5%、女性は28.3%だが、「活躍していない」だけを見ると、男性は6.7%、女性は8.7%で、女性の回答が2ポイント上回っている。

(問18で、「活躍している」または「どちらかという活躍している」と回答した方のみ)

問18-2 女性が活躍していると感じている理由は何ですか。
(○は3つまで)

■ 女性の活躍促進について（活躍していると感じる理由）



前問で女性が活躍している（「活躍している」＋「どちらかという活躍している」）と回答した人（全体 286 人、うち男性 142 人、女性 143 人）にその理由を尋ねたところ（複数回答可）、(3)「管理職ではないが、活躍する女性が増えている」（26.0%）が最も高く、次いで、(1)「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員（職員）の退社（退職）が減っている」（17.4%）、(4)「女性の職域が広がっている」（16.6%）となった。

性別でみると、男性の回答は、(3)「管理職ではないが、活躍する女性が増えている」（26.1%）、(4)「女性の職域が広がっている」（19.8%）、(1)「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員（職員）の退社（退職）が減っている」（18.7%）となっている。また、女性の回答の割合は、(3)「管理職ではないが、活躍する女性が増えている」（25.7%）、(1)「産休・育休などの支援制度が充実し、女性社員（職員）の退社（退職）が減っている」（16.4%）、(9)「家庭での理解や協力が得られている」（13.8%）となっている。

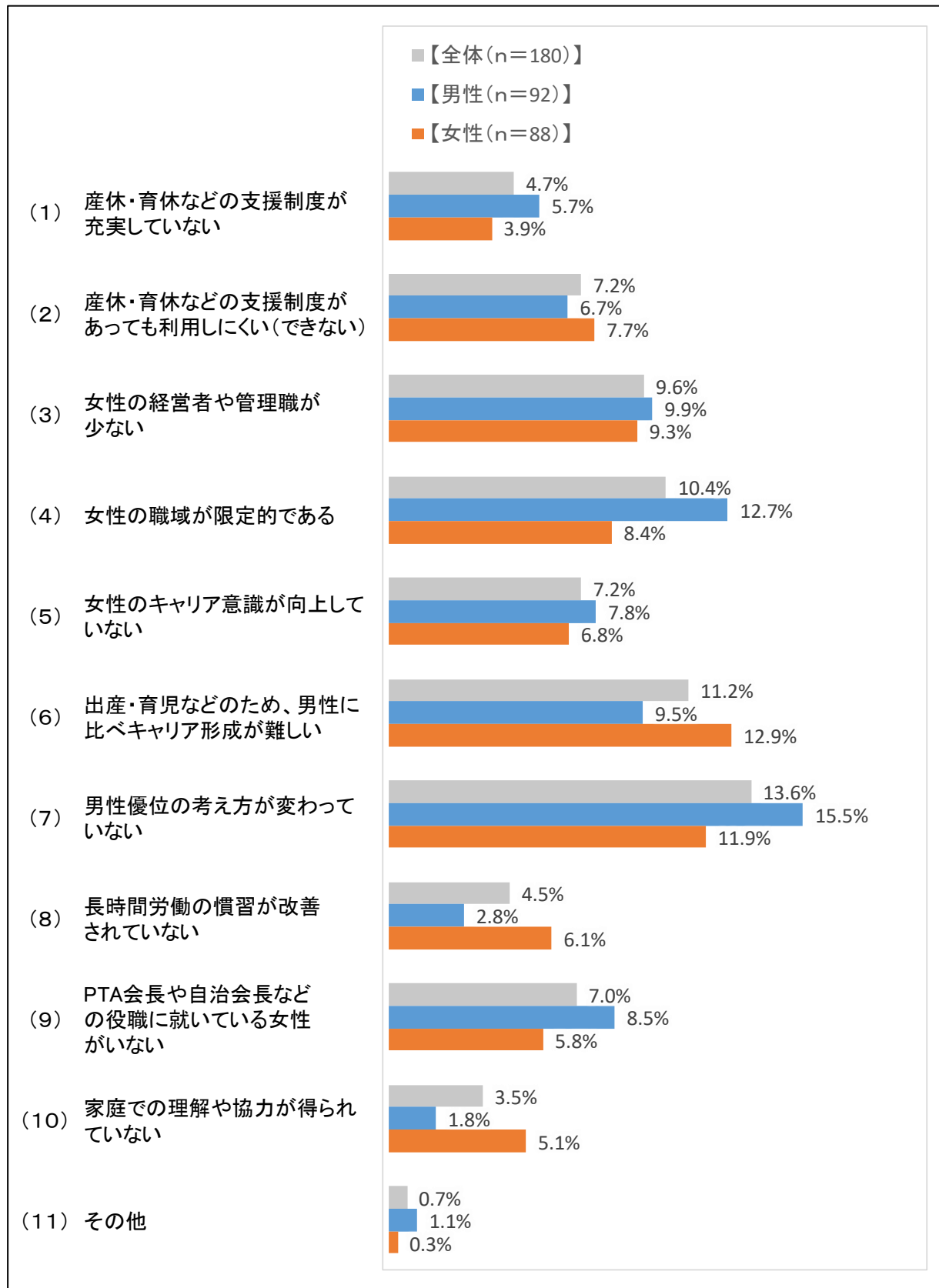
【選択肢「その他」の意見】

- ・ 町内会の動員などで一般的に高齢でも女性の方が元気だから。
- ・ 地域でのつきあいが女性が中心となっている。
- ・ 60 歳を過ぎても働いている友人が多い。
- ・ 女性だからこれだけしかできないと男性は思い、女性はそれに甘えている。
- ・ 公民館を利用した活動。
- ・ 職業仕事の他に、地域ボランティアなどで活動している人が多い。
- ・ 分からない。
- ・ 地域の活動に女性の活躍をよく見るから。
- ・ 女性生徒会長の姿がある。
- ・ 仕事だけでなく、地域の中でやりたいことをやっているから。

(問18で、「どちらかという活躍していない」または「活躍していない」と回答した方のみ)

問18-3 女性が活躍していないと感じている理由は何ですか。
(○は3つまで)

■ 女性の活躍促進について（活躍していないと感じる理由）



問 18 で、活躍していないと回答した人（「どちらかという活躍していない」＋「活躍していない」）（全体 180 人、うち男性 92 人、女性 88 人）にその理由を尋ねたところ（複数回答可）、全体では、(7)「男性優位の考え方が変わっていない」（13.6%）、次いで(6)「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」（11.2%）、(4)「女性の職域が限定的である」（10.4%）となった。

性別で見ると、男性の回答は、(7)「男性優位の考え方が変わっていない」（15.5%）で最も高く、次いで(4)「女性の職域が限定的である」（12.7%）、(3)「女性の経営者や管理職が少ない」（9.9%）となっている。また、女性の回答は、(6)「出産・育児などのため、男性に比べキャリア形成が難しい」（12.9%）、次いで(7)「男性優位の考え方が変わっていない」（11.9%）、(3)「女性の経営者や管理職が少ない」（9.3%）となった。

【選択肢「その他」の意見】

- ・ 自分の楽な考えをする。
- ・ 女性自身にやる気のある人が少ない。
- ・ 年齢が年齢なので。
- ・ 女性が甘えているから。

自由意見 （女性をとりまく問題解決や男女共同参画社会の実現について）

- ・ 我々団塊世代の者は男性優遇の考えを引きずっています。戦前生まれの親に教育されており、変えていきたいとチャンスある毎に努力はしていますが、まだまだ男性が優遇されている場面が多いと思います。我々の年代の者に対しての働きかけが有効ではないでしょうか。
- ・ 平等はありえないですが、もう少し自由がほしいです。
- ・ 一人一人を大切にする市政をお願いします。子供一人、女性一人、男性一人、老人一人、外国人一人、皆大切な命です。個人に目を向けた政治を心がけてください。
- ・ 浜田市の将来はまず、少子高齢化を本気で考える事。そして、男女共同参画社会では、女性特別優遇がスタート。年配者の考えでは遅れる。賛否ばかり気にしてはダメ。若い人の思い切った行動に任せてみる。(若い)行政に期待する。
- ・ 邑南町を参考にしてもいいし・・・
- ・ (女性をとりまく問題の解決や男女共同参画社会の実現のためにも) 男女別姓の法律が可決されることを願います。
- ・ 議員や会社役員、管理職等で、女性の占める割合を高めるとか、〇割を目標とか、そういう風潮をよく耳にするが、その発想自体が逆に差別的であると思う。実力のある者、周囲から認められる者が当役となるべきであって、機会と選出基準・条件が平等であるだけで良い。自分も含め、男性側の古い男性優位の固定観念も悪いと思うが、女性の側にも、「男任せ」「男頼り(経済的)」の感がまだまだ多数であることも一因があると思う。男女双方で努力が必要。
- ・ 最近は婦人会などなくなり、昔みたいに集まって話し合う場が少なくなりました。私達の年代になると若い人から話を聴く事もなく、行事も少なくなりました。コロナで集まることも大変ですが、もっと女性が地域の力になるための、昔の婦人会などできたらいいと思います。
- ・ 女性の給料が安すぎる。有給、公休があっても取れない。女性の働ける場が少ない。特に介護関係の仕事はひどく、役所又は関係機関は知らなすぎる。
- ・ 浜田市では高齢者が集まって色んな行事をすることがなく、何か楽しいことがあれば良いと思います。
- ・ 行政の方が地区において市民を引っばってください。お願いします。
- ・ 私にはむずかしいけど、女性の気持ちを色々察してほしい。
- ・ 女性優先(専用)〇〇等、最近女性を保護する制度が増えている気がする。女性を大切にする制度は必要だと思うが。
- ・ 半面、男性だから〇〇するのは当たり前だという考え方が強くなっている気がする。男性も女性もお互いが尊重される社会でありたいと思う。
- ・ お互いの精神的、肉体的相違を尊重し、男女共々協力して、今後より良い社会生活をしていく上で、お互いを尊重し合える事を祈っています。
- ・ 一概に「これをやったら」というアイデアはないです。ただ、男女が何事につけて共同で頑張るためには、基本的人権の尊重に基づいた個人の思考や行動が重要になってくると思います。男女問わず、年を問わず互いが尊重し合う社会を先ずつくらなくてはならないと思います。ネットの世界では、誹謗中傷の書き込みが氾濫し、見ようと思えば子どもでも見ることができます。とても他人(自分と違う人)を尊重しようというものではありません。浜田市でも行政として独自にこの問題解決ができます。とても他人(自分と違う人)を尊重しようというものではありません。浜田市でも行政として独自にこの問題解決策を練られてはいかがでしょう。差別や妬みのない世界(社会)で、誰もが自由に伸び伸びと活躍できるよう私も努力していきたいと思っています。

- ・ 女性が安心して働けるように、保育園の充実を願っています。またこのような有意義なアンケート調査をする浜田市にも希望を持ちました。まずは市役所の職員の方たちから多くの女性の管理職が出ることを期待しています。
- ・ 一人一人の意識を変えなくてはダメだと思う。古来からの考えは捨て、新しい考えを持たなくては実現できません。国がしっかりと政策を立てた方が良いと思います。
- ・ 30 年前に比べると男女平等感があります。活躍する女性も増えてきました。ただ、子どもは女性しか産めないのが、少子化がとても心配です。
- ・ 結婚制度がもう時代遅れの制度なので、新しい改革が必要だと思います。
- ・ 今は女性もフルタイムで働く方が多いと思いますので、男性も家のことに関心を持ってもらいたいと思います。生活のことがあるので、残業代もかなりありがたいですが、残業することが当たり前ではなく、家族と過ごす時間の事も考えられる社会になって欲しいです。女性も仕事を抱え、追われることもあります、その仕事を途中でやめて、帰って家のことをしなければいけません。それができないと、「家のことを顧みない。」と責められるのは女性です。しかし、仕事もできていないといけいないので、皆が寝ている間にやり残した仕事や勉強をしています。心にゆとりが持てないことで、子供への影響も心配です。夫婦ともに家事や子育てができ、男性も育休が取得できるようになって欲しいです。
- ・ 男性優位という考え方はそう簡単には変わらないと思いますが、男性も女性もそれぞれ自分の持っている能力が最大限に発揮できる場が与えられ、求められることがお互いの生活をよりよくしていくことになるのですから、そういう前提の啓発活動も大切だと思います。
- ・ 浜田に来てから、地元では見なかった女性のバスの運転手を見て驚き、良い町だと思いました。女性の仕事の幅が広がって、一人でも生きていけるような自立した経済力を持てるようになると思います。また、妻が亡くなると途端に生活ができなくなるような男性を今までみてきたので、一人でも生きていけるような生活力をもてるように男性も頑張る必要があると思います。
- ・ 男女が共に人間である以上は、公平かつ平等でなければいけないと思います。しかし、男性としての役目、女性としての役目は自ずと違いがあるのではないのでしょうか。それぞれの役目を果たしたうえで、男女共同参画が理想だと思います。
- ・ 現在の社会風潮では上記の事については、なおざりにされて、「男女共同参画」という事が強く言われ、あまりにもマスコミなどが騒ぎ過ぎだと思います。日本は、国の歴史、環境、風土、慣習などが欧米とは全く異にしています。そうした事には祖先の叡智が巨大な山のように堆積しています。そうした永くつづいてきたものを一挙に変えようとするから無理が来るのではないのでしょうか。緩やかに改善、改革していかなければ、日本人の生活のあり方は崩壊していく、日本の良さが失われていくと思われます。
- ・ とにかく女性が参画社会で活躍しようと思えば、仕事と家庭、両方は無理な事もあります。身体も男性女性とは少々ちがう面もあるので、お互いに助け合う事。
- ・ 健康なのに、結婚したら仕事を辞め、夫の扶養になりたい(働きたくない)女性がいる。そういう方々に男女共同参画社会の実現への関心とか上げるのは難しいだろうと思う。男性に養ってもらおうという考えが分かりません。国が扶養、税の改革をしないと、女性の向上の為に頑張っておられる方々や、頑張ろうとしている女性の努力が、いまいちむくわれないなと(そうなりたくない、今のままで良いと考えている女性がいるので)と思います。男性に甘えて、自分は楽をしたい人。自分は男性より下でいい。楽だから、という人。
- ・ 無作為に選ぶよりも、市で働く人の家族からアンケートをとっていったらいいんじゃないですか。あまりいい形ではないと思います。本気で考えているならの話ですけど。

- ・小学生に対する教育はしっかりした方が良くと思います。自分の父親がどういう人なのかによって子ども(男の子)も家事に参加する姿勢が変わってくるように感じており、学校でも「男子だから・女子だから」という考え方は偏っているということを伝えていく必要があると思います。
- ・「女性活躍推進」など、女性という性別ばかりに焦点があてられていますが、男性にも女性にもいろいろな性格や能力を持った人がLGBTの人も少なからずいます。女性の管理職が増えればいいというより、多種多様な人たちが自分らしく働き、平等に扱われる世の中になればいいなと思います。
- ・女性の社会進出する上で、「権限と責任」については充分理解した上でチャレンジすべき。家庭での男女差別(格差)はあるべきではない。
- ・意識改革の積上げに努めます。
- ・問題が話せる、相談出来る場所がなければ意見や要望も出て来ない。きっかけを作り、利用して継続して行く事は大切。
- ・人口も人口ですし、問題を問題だと思っていない数も少ないってことかなあと思っていた。
- ・男性優位にするべきだと思う。・女性の活躍も重視し、考え方・意見は、尊重するのはいいけど、あまり表だって多くは賛成ではない。(特に市議行政機関)
- ・学校教育が必要だと思います。親たちは差別の中で生活してきているので、深く考えられないのではないかな。今後の教育で子どもたちが大きくなるにつれて差別は減っていくのではないだろうか。そして大人は忙しすぎると思います。
- ・女性というより外国人(男女)の仕事や生活を守る、または多くすることを望みます。女性が活躍し、外国人が住みやすい街を作っていただきたい。
- ・行政・地域・職場の一体となった連携が大切と思う。
- ・外国人の位置づけはどのように考えておられるか？労働力が不足するなかで、外国人の力は大きなものがあるが！
- ・明石市のまねでもして浜田市を良くしてください。
- ・会社など経営者向けに指導してほしい。
- ・社会通念、仕来り等にとらわれる事なく、女性自身の意識改革も必要！
- ・都会の大きな企業ならば男性の育休もとりやすく女性の育休産休を取った後に職場復帰がしやすいイメージがある。
しかし、地方の小さな企業となると男性の育休が取りにくく女性も育休産休を取ったとしても職場復帰がしにくいイメージがある。会社としてではなく町や市の単位で取りやすい職場を作っていく必要があると思う。
- ・看護・介護・保育の分野など女性の力なしでは成り立つとは思えない職種もあります。この分野では、女性の管理職も多いと思いますが、全体的に女性が安心安定して働き続けることが出来る制度の確立と個々の支援により沢山の分野で女性の進出ができる事を願っています。
- ・20年後には変わらざるを得ない時代が来るのでは。そのためにも地方においては社会環境、風習や考え方の変化が必要と思われる。
- ・島根、特に県西部は、意識が低いと感じています。経済力と学力でもって、男性女性双方がこうあるべきという意識が深く(特に50歳台以上)、世代間でもその考え方が生活の中でしみついているように思います。
- ・各種団体(まちづくり推進協議会、自治会、福祉委員会その他)の役員選出規定において、例えば男女半々とする。そして、副会長を2名とすれば、1名は男女各1名とする等により、男女共同参画を図る。

- ・ 男女共同参画の実現には、中小企業の長時間労働の減少や育児休暇取得等の労働環境の改善が最大の課題だと思います。経営層がいくら「時間外を減らせ、休暇を取れ」と号令をかけても、根本的な仕事量が減らない限り実現は困難です。売り上げを維持して生産性を上げるには、大企業が進めているICT化が必要となりますが、中小企業には人材(システムエンジニアリング)も資金力もないので、一向に進まないというのが現実です。行政が経営に立ち入るのは難しいと思いますが、生産性向上のためのICT化や経営コンサルティング支援のスキームがあればと思います。
- ・ ほんとうに、このアンケート書いて他の方に知れることはないでしょうね。
- ・ まちづくり、人づくりのため、もっと、もっと、女性の方、積極的に色々な場へ参加して頂きたいです。女性ならではの知識、考え方、懐の深い思いを、声を張り上げ、訴えて頂けたらと思います。男性にない思いやりがあるのが女性と思っています。石見地域の女性の心意気を發揮してもらいたいと思います。以上のこと、行政に併せて市議会の支援が絶対です。どうか頑張ってください。今回のアンケート大事と思っています。引き続き、アンケートを行い、目標達成に努めてください。
- ・ 職場の責任者や管理職の方が男性に積極的に育休を取ってもいいと伝えたり、取れる雰囲気づくりをすると男性も家庭で協力して子育てなどできるのではと考えます。
- ・ 男女というよりあらゆる差別をなくす人権意識を育むために、子どものころからどのようにかわっていか大人が子どもを力でコントロールしようとする限り、力関係で支配する、される関係になってしまう。一人一人の気持ちや意見を尊重し、あらゆる問題を話しあいと一緒に考えることで解決する手法を大人自身が実践し、自然に子どもたちに身につくようにしないと、いつまでも悪しき文化が無くならないと思う。時間はまだまだかかるでしょうが、そういった視点を持つ大人を増やしていくことが大切だと思います。そのためにも今後がんばってください。
- ・ 男性の意識の変化が必要なので、子ども達の教育に女性も男性も家事や仕事は同じようにすることを、教えていかないと、何も変わらないと思います。今の子は今の家庭を見ているので、やはり女性の負担が大きくて当たり前だと思って育っていると思います。
- ・ 多くの女性の活躍をお願いいたします。
- ・ 男女平等とは必ずしも同じ事をする事だとは考えていません。理由は体力的な事や性差などは確かにあります。それをふまえてお互いが協力できる事をしあつてする事が大切だと思います。育児等も乳幼児期は、子ども自身母親と接する事が大切な時期です。その間男性が家事を手伝いお母さんを支えることは大切です。そんな風に必要な事を必要な人が助け合う事が本当の平等だと思います。女性の方もリーダーシップをとる方もたくさんいます。活躍の場が増える為にも女性自身意識を高め、都合の良い時だけ女性を売り物にする事は改めて行くべきだと私は考えます。
- ・ 女性が育児と仕事が両立出来るよう、育児フォロー設備。職場でのみんなの意識改革、未来への財産である子供達、労働力の減少が急ピッチに進んでいる。女性も社会進出しやすいよう負担軽減する援助システムの構築。

自由意見 （アンケートについて）

- ・ 会合ではあまり声をださない女性は、男性を指して色々言うので参加したくない。地元の草刈り、宮の草刈り、色々やっても当たり前のように思われる（他の人よりもトラック、草刈り機、伐採の道具を出しても）。
- ・ このような画一的なアンケートで意識の度合いが解るのでしょうか。共同参画とか一部の限られた人たちが言っているだけで、多くの人々は意識さえ持っていないのではないのでしょうか。
- ・ 部分的に合致する回答文が多く、選ぶのに難儀した。アンケートの答えを出すだけで自分の考え方が深まっていくように思った。
- ・ 質問により、女性しか答えられないようなものもあり、もっと一般的なものがよいのではないか。
- ・ 男性、女性ともに得手不得手があり、平等というのは無理な話である。子供がいる世帯は、男女どちらかが家庭を守り、働くのは一人がいいので、その分給料を上げてほしい。（共働きが多く、家でものしつけがなっていない。）
- ・ 80代ですので、一問難しく困りました。
- ・ 難しい質問で困りました。
- ・ 問18の「身近にいる女性」と聞いて、妻を思い浮かべ2番を回答したが、以降の2つの設問内容を見る限り、「周囲にいる女性」のことであると感じ、回答を変更した。答えている途中で、「対象者が違う」と感じ、回答が変わるような問いかけには、アンケート作成上、気を付けるべき。
- ・ 問18-2 集合住宅の場合で書きました。
- ・ 回答者が係ること以外のアンケートがあるため、推定での回答となり、意義のある統計とはならないのでは。
- ・ 難しいことばかりで何度も読み返して記入しました。おかしいと思われることがあれば許してください。でも、このような調査をされるのははじめてですので、少しでも役に立つことがあれば幸いです。
- ・ 東京都 小池知事 尊敬します。男性の性犯罪が多い気がする。
- ・ 高齢(90)でありますので、戦後からの女性の活躍を見続けてきて、親世代では味わえなかった女性の地位向上は素晴らしいものがあると思います。ここ3,4年間娘夫婦と同居し、育った環境、年代等に於いて、まだまだ男性の意識の改革が必要ではないかと思います。
- ・ 若い人達が子供を安心して預けられる所があって、仕事があり、心豊かな生活が出来る浜田市になれば本当にいいと思います。働ける仕事の確保が一番だと思います。幸いに旭町は子供を預けられる環境が整っている様子。
- ・ 市役所はカウンターごしの本当の意味での行政だと思います。女性が窓口におられると何でも正直に相談できます。男性では駄目だという事はありませんが、そう思います。
- ・ 課題を一つにして重点的に運動する。その結果(達成率)を公表する。
- ・ 浜田市が男女共同参画についてのアンケート調査を実施することに驚きました。
- ・ 根本的には女性自身が職業生活における意識向上を持ち、家庭での理解や協力が得られるよう努力することが大事と思い、そこから出発するものと思う。社会参加へ向けて学ぶことも大切。
- ・ そもそもこのアンケートが女性よりに感じる。男女平等のアンケートではない。アンケートもwebできたらいいと思う。
- ・ 常に市民目線で行政を行ううえで、この様なアンケート実施は良いことと思う。
- ・ いろいろな女性の職業生活(特に小さい子や未就学の子を持つ方)における制度があるが、それぞれの会社で使えない人もいると聞く。または、会社として使っても良いが使うと周りからいや

な目で見られる人も多いので、企業に対してのアプローチもあればいいと思う。

- こんなアンケート ただする事自体 紙の無駄。
- 所々コメントしましたが、浜田市が何をどう思っているのかわかりません。今後どうしていきたいのか。そのためのアンケートなのかもしれないですが。女性の役割と DV と同じアンケートでは本音が分からないと思います。何を知りたいのかわかりません。このアンケートの結果をどのように公表されるのかわかりませんが、浜田市に色んな意味で期待していません。介護の事もですが、包括など…。すみません、色々と。私は、浜田に期待しておらず、この先どうなるかわかりませんが、移住します。女性が活躍していないと思っているアンケートなら、やはり失望です。人口が減るのも当たり前だと思います。私は介護の仕事をしていますが、もっと包括にがんばってもらわないと、介護保険料も減らないと思います。県外に出るとか今の現状では、あたりまえだと思います。
- 高年齢なので社会のことはあまりわかりません。ましてや子供がいないので情報は新聞テレビ等で知るだけですから。
- アンケートの回答は良くかけてないと思います。
- 生涯独身予定の私には縁のない話だと思います。
- 地方ではまだまだ男性中心の社会が多いように思います。女性は決して男性に劣らない。これを解決するには上の社会の変化が必要です。たとえば、女性天皇とか相撲時に女性は土俵にあげられないとか。以上を考えた時にはまだまだ男性社会ですかね。
- 本人は96才です。分かる事だけ記入しました。
- このアンケートの集計結果は公表されるのでしょうか。
- ごくろう様です。
- ①市の計画について一貫性がみられない。②利用者の意見を聞くべき。一つにまとめる意味が分からないことはないのか。
- やはりこの地域では男性が中心になっています。私はそれで良いと思っています。また、女性の方も看護師さんとか介護の現場で頑張っておられます。難しいことはわかりませんが、もう少し若い方に聞かれた方が良かったのではないのでしょうか。
- 不愉快でした。
- 男性・女性との差別はよくありませんが、仕事の内容によっては、男性に出来ても女性にはできない。その反対もあると思います。たとえば力のいる事など高い所などは男性がどちらかと言えばあっているかと思っています。その反面、女性だと細かい事や子供の事とかは、得意とするところではないのでしょうか。
- DV とかいじめなどは、相談はある程度出来るかと思いますが、その後の事が大事になるのではと考えます。あとあとの相手による。もっとひどくなる行動を恐れて言うことができなくなるのでは…あとのケアも必要かと思っています。
- 私は戦前に生まれ明治の親に育てられています。考え方が少々古いかもしれませんが。家内も 20 年前に亡くし、30 数年間連れ添った頃を思い出しながらアンケートしています。
- 子育て世代とそうでない世代とで考え方が、大きく違わなければいけないと思う。未来を担う子供の大切な環境を置き去りにする事は、あってはならない事…と同時に両親の責任の重さを最重視する必要があると思う。
男女共同参画は、その様な足元を見ている人達の事であって欲しい。
- 「男女共同参画」といいつつ、なぜ女性の参画等が中心のアンケートになっているのでしょうか？
同じ内容で男性側の質問もあって良いのではないかと感じました。

- ・ 18歳以上とあるが、若い人と高齢者、また、仕事を持っている人とか手に入っている人のようにバランスがわからない。偏った傾向になりはしないか。
- ・ アンケート結果を広報紙等で周知してほしいです。
- ・ 女性の社会進出する上で、「権限と責任」については充分理解した上でチャレンジすべき。家庭での男女差別(格差)はあるべきではない。